

# 幼児の教育

第四十九卷

第四號



四月號

日本幼稚園協會

# 新 學 期 用 品

自由画帳

定価 二〇圓  
送料 6圓、40冊まで 55圓

おさいく帳

定価 二三圓  
送料 6圓、50冊まで 55圓

ぬり

大判定価 三〇圓  
送料 6圓、40冊まで 55圓

ぬりえ(初級)

定価 二五圓  
送料 6圓、50冊まで 55圓

ぬりえ(上級)

定価 二五圓  
送料 6圓、50冊まで 55圓

日本幼稚園協會編

えとぬりえ

定価 40圓  
送料 6圓、40冊まで 55圓

御道具箱

定価 50圓  
送料 5圓、5箱まで 35圓

紙

(文部省配給品)  
寸色枚 5710  
定価 二二〇圓  
送料 二〇〇組まで 三五圓

折紙

寸色枚組 4各100  
定価 二〇圓  
送料 50組まで 35圓

折紙

寸色枚組 5各100  
定価 三〇圓  
送料 50組まで 35圓

折紙

寸色枚組 5各100  
定価 三〇圓  
送料 50組まで 35圓

## 床上積木

大 基尺 8 cm, 容積 32  $\text{cm}^3$  定価 1800 圓 平 350 圓  
中 基尺 6 cm, 容積 25  $\text{cm}^3$  定価 1500 圓 平 250 圓  
小 基尺 3 cm, 容積 12  $\text{cm}^3$  定価 450 圓 平 35 圓

一箱の積木数約 90 箇、形は、基本的の形を網羅して居ります。

## 砂場用具

砂 型 (4 種入り 100 圓, 平 35 圓)  
シャベル (20圓 平30ケまで35圓)  
バケツ (60圓 平8ケまで35圓)  
ふるい (60圓 平15ケまで35圓)  
トンネル (70圓 平3ケ/35圓) 汽 車 (80圓平10ケまで35圓)  
自動車 (50圓 平10ケ/35圓) 客 車 (80圓平8ケまで35圓)

## 紙芝居

定価 250 圓, 袋入り, 平 35 圓

第1集 みみちちゃんとおおかみ  
第2集 どの子がいい子  
第3集 お母さんはどこえ  
第4集 親 指 姫

## 運動遊具

(圖・解説入りカタログ進呈)

ジャングルジム, 滑り臺, ブランコ, 置きブランコ, 波動回転塔, 共同ジャングル, 大こ梯子, メリーゴーラウンド, 廻てん椅子, 等です。

発行所

千代田區神田  
神保町 2 の 4

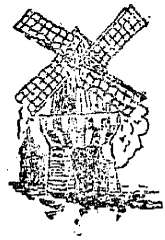
フレーベル館保育用品株式会社

飯呑口座  
東京 38171

# 第四十九卷 幼 兒 の 教 育 第 四 號

## 目 次

理想の保育都市……………	倉 橋 惣 三……………	(2)
わが國における保育法の傳統(近世一)……………	村 山 貞 雄……………	(7)
季節の花や葉ッばや莖でつくるおもちゃ(二)……………	瀧 田 要 吉……………	(13)
街の片すみの幼児教育にも夢はある……………	鈴 木 と く……………	(17)
伊豆山童園記……………	中 田 保……………	(23)
我國の再建築……………	淺 野 壽 美……………	(28)
子供讃歌(七)……………	倉 橋 惣 三……………	(32)
(講話) 幼児の心理的發展(一〇)……………	山 下 俊 郎……………	(37)
記 録……………		(40)
保育所運営及び指導要領(案) 作成懇談會……………		
第二回全國保母養成所長會……………		
官廳公示連絡事項……………		(41)
幼稚園教員養成短期大學の誕生(文部省)……………		
昭和二十四年度幼稚園教員養成所修了者の措置について(文部省)……………		
ユニセフ寄贈物資による保育所給食範圍の擴張について(厚生省)……………		
會 場……………		(44)



# 理想の保育都市

## — A 市 の 場 合 —

倉 橋 惣 三

5	4	3	2	1
A	公	私	公	A
市	立	立	立	市
保	保	幼	幼	の
育	育	稚	稚	保
連	所	園	園	育
合				地
				誌

### 1 A 市の保育地誌

理想的ということとはそんなに容易にいえることではない然し、批難に倦たものは、どこかで、こういう言葉が、使つてみたくなる。その意味で、A 市は、理想的保育都市に近いものといつても、よからうか。少くなくも、理想の部分分に於て。

A 市は、古い町制から、市制になつた土地で、全國の市制を布かれてゐるところの中で、おそらく最も小さいものであろう。が、こゝには昔から、いい氣風の傳統が幾つかあつて

その一つは、市の子供を可愛がるという優しい風である。

市の中央は、昔からの町の部分で、そこに大きな公立小学校と、公立幼稚園とが並んでゐる。いづれも、もうだいたい古い建物になつてゐるが、昔流の、木口の堅牢な、建て方で、遊園も廣々と、南をうけてゐる。殊に、幼稚園の庭のまわりが、きれいな花壇になつてゐるのも趣き深い。幼稚園の門は人通りの少い西側についてゐる。人通りの少いというが、それは車の交通の少いことで、花壇の花が季節々々美しいのにひかれて、わざ／＼そこを通る人も多いようだ。

市の東の部分は、比較的新しく出来た工場地域で、スラムといふほどではないが、道も狭く、長屋式建物がこみあつてゐる。その一部に、公立保育所がある。公立幼稚園よりも新らしく出来たものだから、新式な、ペンキ塗建築になつてゐる。そのペンキは、あつちとつち、はげてはゐるが、こゝの工場の塀が、いづれもグリーンに塗つてあるのと同じ色で何となく目をやすめる。そんなに大きな建物でもないが、う

しろの方に、煉瓦づくりの高い別棟がみえる。自慢の給食調理室である。

市の西部は、都心から少し離れて山沿いになつてゐるが、いわば、住宅區域といつたものである。たゞし、そんなに豪華な住宅はないので、市から三十分ほどの汽車を使つて、A市よりは、ずつと大きい都會の役所や會社に通ふ人達が住んでゐる。こじんまりとした文化住宅が多い。その斜面になつてゐる丘に、私立幼稚園がある。比較的自由に土地のとれる處へ、バンガロー式の保育室が、散在するように建てゝあるのは、如何にも、文化的に明るい。その丘から、南に、海がみえるのもいゝながめである。

市中央の公立幼稚園は、市の人口の増加と共に、だん／＼に入園志望者がふえてくるし、山の方の新住宅地の子供達の足には、通園距離も少し遠い。そこで、公立幼稚園をこの方面に、もう一つ作らうという議が市會にも出たのであるが、住宅地區に住んでゐる人達の中から、こゝでは市の經費を煩づらわさないで、自分達で私立幼稚園を設けようということになり、近ごろ出来たものである。前に言い落したが、西部の保育所は、公立であるけれども、そこにある工場が進んでその經費の大部分を負担してゐるので、經費だけの點からいへば、公私合同立といつた形になつてゐる。なお、もう一つこの市の古くからの仕來りとして、公立幼稚園の創立の時から、公立小學校が無月謝なら公立幼稚園も無月謝であるべきだといふことが、當時の町長の意見として、そのまゝ今日に

及んでゐる。實際、市としては、公立保育所の方への負擔が——幼稚園より後に出来たのである——前に述べたようなわけで輕くなつてゐるので、それが、公立幼稚園の方へ、らくにまわされる實狀になつてゐる。A市でも、豫算の配分は相當もめることもあるらしいが、公立幼稚園で保育料をとらぬことゝ、一般に子どものための經費の融通とは、前例を破らないのが、慣例になつてゐる。

とにかくこの三施設で、今のA市の保育が行われている。勿論、義務保育ではないから、全市の幼兒にゆき渡つてゐるわけではないが、公私幼稚園、保育所、いづれもが、全市保育の理想の實現を、自分達共同の責任として、考へてゐるのである。

## 2 公立幼稚園

この幼稚園は、はじめは、小學校の附設であつたが、後に獨立園となり、その前から居た今の園長が初代園長である。園長は女子師範出で、卒業の時から特に幼稚園を志願して來たのであるが、主任時代から町の人望を得てをり、校長の信任も厚かつた。園長になつた時は、もう子どもも餘り手にかゝらない齡であつたが、今では東京の大學にいつてゐる長男とはじめ、三人の子の母ながら、全力をこの幼稚園につくしてゐる。この園長が町の人望があるわけは、もとよりその篤實な人柄によるが、町の大商人のおかみさんよりも、小店のおかみさん達に、かえつて丁寧に、懇切であること。在園兒

以外の町の家庭の人々とも、よく親しくしている等が、原因であるらしい。園長としての事務も、きちん／＼と整頓するが、保育を離れて、幼稚園の楽しさはないといつて、毎日各室を順番にまわつて、自由遊びの中に入っている。缺勤の先生のある時は、ちゃんと朝から、その部屋を引うけて、市役所からよびにきて、幼児のいる間は、保育中ですといつて行かないでと、をつてゐる。また、いつも掃除すきで、園長さんは小使さんの助手のようだと言われたりしている。次席はこの小學校の數年の経験の後、特に幼稚園への興味をもつてうつられた人で、頭のいい研究心の盛んな、ちやき／＼した人である。園長の信頼のもとに、研究方面のことを一手に引きうけているといつていい、東京その他での研究會や、協議會にも、園を代表して、この人が出ることが多い。その研究の中でも、小學校低學年との教育的連絡が力を入れている問題で、その機の本立には、保育書類と共に、小學校の教科書や學習指導書や、洋書もまじる新教育の研究書類がいつも絶えない。

この幼稚園は、前にいつた如く、保育料なしであるが、市からの豫算も充分であるし、事ある毎に、PTAから進んで支出されることも多い。それを先生達が個人に分つことがないので、保育費や、園改善費はいつも豊かである。もう一つこのPTAの特色といつてもいいのは、年に幾度か、PとTと幼児との娛樂會が行われることだ。子どもはもとより市中のお母さん達の大きな楽しみになつてゐる。園長に言わ

せると、こうして市中のお母さん達と、懇意になるのだといつて、在園児以外の母親達をも、おばあさんたちをも、歓迎している。

この園長の心の中には、どこまでも市民の幼稚園という信念が、その頬の如く、ふくよかにもたれてゐるのである。

### 3 私立幼稚園

丘の上の私立幼稚園は、前にもいつた如く、公立幼稚園増設の市の計畫を助ける爲めに、有志によつて計畫されたもので、財團法人の組織になつてゐる。園長は財團役員の中から選舉で交替にきめることになつていて、今はこの山の上にある、古い眞宗の寺の若い住職さんが當つてゐる。京都の大學出の新知識である。大の子ども好きであるが、いまはその興味をこの幼稚園に集中してゐる。寺の人ではあるが、幼稚園では特別の宗教教育をしない。むしろ、科學心の教育に重きををいてゐるという風である。

こゝでは、保育料をとつてはゐるが、PTAの會費として財團の基金の利子にあわせて、園の經費負擔することになつてゐる。財團の基金が相當にあるので、保育料の額も、そう多くはならない。園長にも少しだが俸給はきまつてゐるが、すべての収入は財團に公開されて、一銭も個人所得となることはない。

設立の由來が由來であるから、こゝのPTAの熱心なことは實に一つの特徴となつてゐるといつていい位である。前に

いつた如く、この地區の家庭の夫君達は、晝間出勤者が多いので、時間を上手に使えば、多少の時間を幼稚園のためにサ―ビスできる妻君達が少くない。そこで相談の結果、何か得意の技能をもつ人は、たとえば音楽とか、圖畫とかで、幼稚園の先生の手傳いをする。特別の技能をもたないものでも、先生の助手になつて、子供の保育にあたる。つまりこの幼稚園では、P達が、Tと共に保育の實際にあたるのであつて、それが大そうまい工合にいつている。普通のPTAの如く保育に對して間接の働きをするというのにくらべて、母達が保育に直接に働くのである。勿論そういう場合も、その組の保育の中心は先生であつて、母達はその指圖を受けるお手傳いであることを決して超えない。たゞそのお手傳いが、臨時とか、決して氣まぐれごとではないのであつて、その日割と時間とを嚴重に守ることになつている。家によつては、東京で高等教育を了えて家庭に歸えつていゝという結婚前の娘達もあつて、そういうのは、自分達の修業の爲めに、幼稚園にお手傳いにくることを奨励されている。こゝの先生達の多くは女子の大學の卒業生で、これらの若い人を指導するには、充分の力を持つてゐる。また、園長の發意で、圖書室が出来ていて、文化各方面の新舊の本が備えてあり、Tには勿論、P達の教養機關になつてゐる。その他この幼稚園の文化的の香の高い事は、部屋／＼の裝飾に於いてもよく現れてゐる。

#### 4 公立保育所

公立保育所は、兒童福祉法施行以前からの設立であるが、創設當時から、保育所の任務がよく理解されていて、所長もニューヨークの社會事業大學で勉強して來た人が用いられてゐる。この人は、さすがにその道の専門家だけあつて、地域の「社會測定」を綿密に行つておつて、公立幼稚園に通うのを適當とする子どもたちは、なるべくその方にまわしてゐる。また、地區の幼兒數の年々増加してゆくにつれて、第二の公立幼稚園の設置を熱心に唱えて、その出來るまでのところ幼兒をもあづからなければならぬという考え方である。従つて、この保育所が大に力をいれてゐるのは、乳兒保育であるその施設には、アメリカのいゝ保育所に似たような行き届いたことが、いろ／＼出來てゐる。保母の中には、育兒保健婦の資格のあるものが數名いて、保育所内のみならず、働く母達の、家庭育兒の指導にもあたつてゐる。その一つの働きとして、一般的に育兒相談所を、狭いながら附設として公開してゐる。前にいつた如く、いくつかの大きな工場が、その費用を進んで負擔してゐるので、保育時間の長い保母さん達の待遇についても、充分な注意が行われてゐる。こゝでは忙しい母達をよび集めるPTAというようなことはないが、育兒相談所を利用して、屢々育兒展覽會が行われるし、家庭訪問もまた定期的に行われてゐる。この所長の理想は、早く第二公立幼稚園が、この方面に出來て、（西部に私立幼稚園が出來たのも、東部に公立幼稚園の設立を促進する目的があつたのである）年長兒は幼稚園に通わせ、年少兒に對する保育所

の任務を完成したいことである。

保育所の後ろは、割合に廣い農園が出来ていて、給食用の野菜が作られている。所長はアメリカ仕込ではあるが、蔬菜園に興味を持つてをり、他の職員をうながして、なか／＼熱心である。親達の中にも、農家出の人達は進んでこれに参加して、朝早くくる人もあり、夕方などは、なか／＼にぎやかである。そういう時は、所長も、職員達も、粗末なモンペ服に着かえて、「食糧運動」とか、「食糧體育」とかいって、みんなといっしょに働いている。

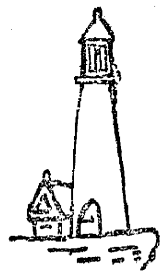
## 5 A 市保育連合

二つの幼稚園も保育所も、それ／＼特色のあることは、前から記し来たところでもわかる。公立幼稚園は、何といつても、教育的といつた調子があり、先生達も、その幼稚園を、學校教育の一貫として、發達させることに意を用いているといつてよからう。私立幼稚園も、もとより教育精神を充分に持つてゐるけれども、文化的香りの高いところに特色がある園長は、保育の實際に就ては、先生方に任かせて、こまかいことをいわないが、根が、大學の哲學出身であり、哲學界に名を知られている人だけに、その高い理想主義が、幼稚園全體に、ゆきわたらずにはいない。保育所は、これに對して、どこまでも、社會現實にピッタリあつたところに特色があるのは勿論である。然し、それは保育所としてあたりまえの事で、この特色としては、育児保育の科學性にある。この點

では二つの幼稚園にまさつてゐるともみられる。

こうしてそれ／＼特色はあるが、共通の點は、どこにも事業家的俗氣の少しもないことである。公立の場合は、もとよりだが、私立の方もその點、極めてノールブルである。そうして、最も著しい事は、この三施設が、A市の保育のために、完全に連合的にはたらいっている事である。幼稚園と保育所、公立と私立ということは、A市の保育のためという共同の全體目的のためには、別々の施設として意識されていない。そこで三施設の連合協議會ということが、各職員に市の當局や小學校長始め先生達をも加えて屢々行われる。そうして保育の共同目的を研究すると共に、A市の保育の將來の發達の爲に各々の立場から離れ、しかも各々の使命に忠實に、常に同調協議されている。たとえば、もう一つの公立幼稚園を東部に新設することなどがいつも共に語られているのである。この共同のために、もう一つ大きく役にたつてゐることは、年々催される、市長主催の先生方の招待である。市長は、市のために働らいている人達の中でも、教育方面の人々を特に尊重しているので、青葉の頃になると、自分の邸宅や邸園を開いて、先生方のために園遊會をする。そうして、心から先生方をねぎらうのであるが、同じくA市の子どものために、盡すこともらうという意味で、特に私立幼稚園の先生方に感謝することを忘れないのは、毎年繰りかえされるあいさつである。先生方もまた、こういう機會毎に、保育のためという抽象的な理念のほかにA市のための保育という現實的 (二二頁)





## わが國における保育法の傳統（近世）

愛育研究所員

村 山 貞 雄

### 一 序

わが國の近代におこつた幼稚園は、成立當初から兒童期中心の注入教育法の傳統から離れて、幼兒のための自由保育的な方法を採用して來た。

これは（一）幼兒學校（Infant school）の傾向をとり入れる機會がしばしばあつたにもかゝらず、その傾向をとり入れないで、キンダーガルテン（Kindergarten）の、しかも最も自由な幼稚園式保育法を採り入れたことや（二）ミッション系統をはじめとする私立の幼稚園が多かつたことや（註一）（三）園児が一部上流の子弟に限られた上に（四）保母（現在は教諭）の養成方法が師範學校教育から離れ且つ一般の師範教育からも離れがちであつたこと（註二）等によることが多いがこの他に、すでに近代より前に近世において保育的な教育法の主張が傳統として存在したことを忘れてはならない。

すなわち近世は封建的な宣の思想によつて教育を行う根本

的態度として、幼兒期には自然的に兒童期には嚴格に青年期には立志に基いてとゆうように、隨年的に適宜に行うことがしばしば主張せられてゐるが、この主張は自然科學的な統一規則の方法が考えられがちであつた西歐よりも反つて、幼兒期に自然的教育法を採りだして強調することになつてゐる。このような考え方は、西歐のように、自然的教育法を效果のある方法として教育方法の主流にまですゝめることはできなかつたけれども、幼兒期を兒童期からとり出して、教育を専らとする兒童期以前の幼稚な時期には、自然的な教育方法が正しいとして特にこの時期の教育法を主張する結果になつた。（註三）

この保育的教育法の傳統は思想的には儒教の啓發思想の中に理論的根據を求め「客觀的自然主義」の形をとつて發達し近世後期の發達心理學に對する若干の思索により實際的に主張せられた。そして近代幼稚園の保育法に對しては直接に影響を與えた有力な傳統とはならなかつたが、その素地となつ

たものである。

以下、この自然的教育方法を「自然教育」法と呼び、自然教育法について述べよう。

なお本稿は、「幼児の教育」の第四十七巻の第五號と第六號に「近世の幼児教育」という題で述べられた論文の最後に「このように幼児後期の教育方法は自然的な教育方法が家庭で行われた事に特色があつた。その詳細については稿を更めて述べよう。」

とあることの約束を果そうとしたものであるから、できれば前の論文を参照にせられたい。

## 二 自然教育法の地位

近世は、子供を教育するために一般に嚴格な方法がとられた。しかし、まだ幼稚な時期にあると思われる幼児と幼童の一部分に對しては、特に無理にならぬことが考えられ、自然的な方法が主張せられている。

すなわち、一般に云えばこの時代の人々は、儒教や特に封建思想などの影響もあつて、子供の心理に獨立した特色と價値を與えておらないし、したがつて、子供の意義をそれ自身に目的を内包した世界として認めなかつた。それどころか、中世と同様に子供の心理からすこしでも早くぬけ出して、大人の世界に入ることを希求した。例えば、近世にしばしば大人しい又は大人しくなるとゆうことが子供に希望せられたがこれはわらべしい心を去る意味を含み、近代よりも遙かに言

葉通り具體的な大人の觀念を含んでいる。この結果、一般に教育對稱である子供自身が輕んぜられることとなり、したがつて、いわゆる心理的方法が無視せられることが多かつた。

以上は子供にたいする一般の状態であつたが、子供の現實の幼稚さは幾分認められていた。特に幼児は一般の子供と異つた取扱いがせられ、童兒も幼童といつてをさなさを含む一段階が考えられた。また、思想的にも、儒教の啓蒙教育の傳統が存在したから、客體に對する反省の結果、教育を方法化することが若干主張せられ、心理的方法が微弱ではあるが存在している。

これらの結果現れた自然的方法は、史實よりも特に文化の峰を表現しがちな思想史によくあらわれている。又近世後期になつて兒童心理に對する着目によつて一そう強められた。

## 三 自然的教育法の基盤

この自然的方法に對して、近世に最も強い論理的基礎を與えたものは、物象界における自然現象に對する觀察であつた。發達心理學がまだ發達しない以前は、教育方法を主張する根據として、自然現象が考えられるのが普通であるが、近世、幼児教育の方法に、思想的な基盤として自然の法則を探り入れたことは、儒教の自然思想に負うところが多い。

例えば「孟子」に、

必有<sup>ス</sup>事<sup>ト</sup>焉<sup>ニ</sup>。而勿<sup>レ</sup>正<sup>ス</sup>。心勿<sup>レ</sup>忘<sup>ス</sup>。勿<sup>レ</sup>助<sup>ス</sup>長<sup>ニ</sup>也。  
無<sup>レ</sup>若<sup>ク</sup>宋<sup>ノ</sup>人<sup>ノ</sup>然<sup>ル</sup>。宋<sup>ノ</sup>人<sup>ノ</sup>有<sup>ル</sup>閔<sup>ニ</sup>。其<sup>ノ</sup>苗<sup>ノ</sup>之<sup>ノ</sup>不<sup>レ</sup>長<sup>ニ</sup>而<sup>レ</sup>振<sup>ス</sup>  
之<sup>ヲ</sup>者<sup>ヲ</sup>。芒<sup>ニ</sup>然<sup>ト</sup>歸<sup>リ</sup>謂<sup>フ</sup>其<sup>ノ</sup>人<sup>ニ</sup>曰<sup>ク</sup>。今<sup>ニ</sup>日<sup>ニ</sup>病<sup>ム</sup>矣<sup>ニ</sup>。予<sup>レ</sup>助<sup>セ</sup>苗<sup>ヲ</sup>  
長<sup>シ</sup>矣<sup>ニ</sup>。其<sup>ノ</sup>子<sup>ノ</sup>趨<sup>リ</sup>而<sup>レ</sup>往<sup>ニ</sup>視<sup>ス</sup>之<sup>ヲ</sup>。苗<sup>ハ</sup>則<sup>チ</sup>稿<sup>ニ</sup>矣<sup>ニ</sup>。天<sup>ノ</sup>下<sup>ノ</sup>之<sup>ノ</sup>  
不<sup>レ</sup>助<sup>ス</sup>苗<sup>ヲ</sup>長<sup>シ</sup>者<sup>ヲ</sup>寡<sup>ニ</sup>矣<sup>ニ</sup>。以<sup>テ</sup>爲<sup>ス</sup>無<sup>レ</sup>益<sup>ニ</sup>而<sup>レ</sup>舍<sup>ル</sup>之<sup>ヲ</sup>者<sup>ハ</sup>不<sup>レ</sup>  
振<sup>ス</sup>苗<sup>ヲ</sup>者<sup>ヲ</sup>也。助<sup>ス</sup>之<sup>ヲ</sup>長<sup>シ</sup>者<sup>ハ</sup>堰<sup>ク</sup>苗<sup>ヲ</sup>者<sup>ヲ</sup>也。非<sup>ズ</sup>徒<sup>ニ</sup>無<sup>レ</sup>益<sup>ニ</sup>。  
而<sup>レ</sup>又<sup>レ</sup>害<sup>ス</sup>之<sup>ヲ</sup>。(註四)

という言葉があるが、儒教は教育方法論の據り所として自然現象をしはば採用している。けだし、漢族は早くから先進して農業生活の形態をとつたために天文學に異常な關心を持ちつゝこれを發達させたが、(註五)儒學はこの漢民族によつて育まれたものであつたから、自然法をば、しはば「道德法・政治法及び教育法の基盤とする結果となつた。」「易經」にはこのことを、「法象莫<sup>レ</sup>大<sup>ニ</sup>乎<sup>ニ</sup>天<sup>ノ</sup>地<sup>ノ</sup>」(註六)とゆうが殊に人間育成の大作用は人類も自然界に包容せられたものであるとして、自然法を母胎として成立した。例えば、「中庸」には、「天地位<sup>ニ</sup>焉<sup>ニ</sup>。萬物有<sup>ニ</sup>焉<sup>ニ</sup>。」(註七)とゆうなど儒書にその思想の記されたものが多い。

このような儒教を思想的基盤として成立した本邦近世の幼兒及び幼童教育は、當然自然現象と關聯して考えられることになつた。すなわち、まず教育の由來を自然に求めている。例えば常盤潭北は、

故に道は自然に出、教となりて身に行ひ、習て性となる  
譬へば性は根なり。教は花なり。行ふて實となる。實を  
植て又根となるが如し、(註八)  
と云う。又教育の方法を自然現象に採つた。例えば柴田鳩翁は、「續鳩翁道話」に、

人の子は。教へずとも人になると。思ふてござるのは。  
大まちがひ。たとへば米麥をまけば。米麥が。出来るに  
違はなけれども。こやしをいれ。草をとり。さまざまに  
手いれをせねば。實がいらぬ。人の子もこれと同じ事  
で。うみ離しにして教へをせず。捨そだちに育て上て。  
人らしい人にならぬも。小言いふのは。無理なものは  
ござりませぬか。(註九)

とゆう。しかし、以上の例からも分るように、近世の人々は、教育方法に自然現象を採用するに當つて、二つの方法を根本的な態度として採っている。すなわち、その態度は、  
一、自然現象の例をひいて、教育方法の裏付けとしたこと  
二、自然現象の觀察から、幼兒教育の方法を考察したことである。

以上のような基盤のもとに成立した自然教育法は、(一)積極的には自然の現象を則り、出来るだけ、自然に教育しようとした形であられており、(二)消極的には不自然な方法が戒められた。前者の著しい特徴は、自發性が強調せられたことで、この結果、遊びを利用することと模倣を重用する

ことが積極的な技術として考えられ、又先入を重視して、自然のうちに教育しようとした。後者にあげられた著しい方法は、氣長にすることであつた。

## 四 積極的自然教育法

### (自發教育法)の傳統

まず積極的な自然教育法についてみるに、自發教育は孔子の啓發教育の思想を思想的傳統として有した。古く「學記」に「道而弗<sub>レ</sub>牽<sub>ニ</sub>、強<sub>ニ</sub>而弗<sub>レ</sub>抑<sub>ニ</sub>、開<sub>ニ</sub>而弗<sub>レ</sub>達<sub>ニ</sub>」とゆう言葉があるが、孔子が、「不<sub>レ</sub>憤<sub>ニ</sub>、不<sub>レ</sub>啓<sub>ニ</sub>、不<sub>レ</sub>悱<sub>ニ</sub>、不<sub>レ</sub>發<sub>ニ</sub>。舉<sub>ニ</sub>一隅<sub>ニ</sub>、不以<sub>ニ</sub>三隅<sub>ニ</sub>反<sub>ニ</sub>、則<sub>ニ</sub>不<sub>レ</sub>復<sub>ニ</sub>也」(註一〇)と云つて以來、啓發教育とゆう語も生じ、この教育方法は邪法でないとしてうけつがれた。さればこの思想は邪法でないとして我が邦の近世に傳わり兒童の教育に考えられてゐる、例えば、孔子を直接祖述した荻生徂徠は、「憤悱啓發、一隅三隅の章、孔門計にかぎらず、今日に至りても教法は只如此候」(註一一)といふ、折衷學派平洲の弟子上杉鷹山は、「輔備訓」の中で世嗣の教育について、總て、教と申ものは、自得を尊び候事に候、一隅を擧て三隅を反すとも之れにあり、憤せされば、啓せず、悱せされば發せずとも之れにあり候、強て、此方よりの仕込にては、必向へ入事の淺きものに候、(註一二)とゆう。こゝに鷹山は、「強ひて此方よりの仕込にては、

必向へ入事の淺きものに候」と、効果を考へ、「何とやら手わるきことの様に思はれ候へども、之を教の術とは申候」と教育方法として斷言したことは注目し價する。又特に陽明學派の教育法は、

今教<sub>ニ</sub>童子<sub>ニ</sub>必使<sub>ニ</sub>其趨向<sub>ニ</sub>鼓舞<sub>ニ</sub>中心<sub>ニ</sub>喜悅<sub>ニ</sub>則其進<sub>ニ</sub>自<sub>ニ</sub>不<sub>レ</sub>能<sub>レ</sub>已<sub>ニ</sub>譬<sub>ニ</sub>之時雨<sub>ニ</sub>春風<sub>ニ</sub>霑<sub>ニ</sub>被<sub>ニ</sub>寺木<sub>ニ</sub>莫<sub>ニ</sub>不<sub>レ</sub>萌<sub>ニ</sub>動發<sub>ニ</sub>越<sub>ニ</sub>自然<sub>ニ</sub>日長<sub>ニ</sub>月化<sub>ニ</sub>若<sub>ニ</sub>水<sub>ニ</sub>霜剝<sub>ニ</sub>落<sub>ニ</sub>則<sub>ニ</sub>生意<sub>ニ</sub>蕭索<sub>ニ</sub>日就<sub>ニ</sub>枯<sub>ニ</sub>橋<sub>ニ</sub>矣<sub>ニ</sub>故<sub>ニ</sub>風誘<sub>ニ</sub>之<sub>ニ</sub>歌<sub>ニ</sub>詩<sub>ニ</sub>者<sub>ニ</sub>非<sub>ニ</sub>但<sub>ニ</sub>發<sub>ニ</sub>其志意<sub>ニ</sub>而已<sub>ニ</sub> (註一三)

とする王陽明の良知説をうけついで、自發教育に傾いた、本心を明かにし、才徳を成熟せんとして中江藤樹や、しゆることなきを説いた熊澤蕃山はその例である。とくに蕃山が、「幼少の子供に手習文字讀を教て、おぼゆる事をそく、或は忘るゝとてむちうつ」の可否について説かれ、「むちうつやうなる子はなし」と斷言してゐることは興味が深い。(註一四)以上、問學によるうとした朱子學派では比較的そのことがすくなかつたがその他の陽明學派古學派折衷學派等には自發教育の傳統が存在した。しかし、寺子屋をはじめ近世に普及した多くの學校は、朱子學に屬しており、近世における自發教育法の傳統はこの意味でも弱かつた。

## 五 積極的自然教育法

### (自發教育法)の内容

この自發教育は主として幼児期と成童期におけるおもな教育方法であると考えられた。それは、兒童期以前、すなわち幼兒期においては、いづゆる興味が主要な推進力であると考えられたからであり、立志期以後、すなわち成童期は主として客體自身の理想に達する意志力が考えられたからである。したがつて幼兒期の自發性は、幼兒の興味的な動機によるうとしたものであり、その結果模倣と遊びの利用が現れている。

### A 模倣の利用

近世の人々は小兒の模倣性に着眼し、模倣によつて、いづとなく、自然に性格や知識を築きあげることが主張した。「小兒ハ都テ父兄ノ眞似ヲスルモノナリ(註一五)」とは、林子平一人の考えではなく、子を持つ近世の父兄の言葉でもあつた。例えば、伊勢貞丈は、

小兒は好みて人のまねをするものなり。猿樂をする家の小兒は猿樂のまねをする。博奕を好む家の小兒は博奕のまねをする。文學を好む家の小兒は文學のまねをする。

武藝を好む家の小兒は武藝のまねをするなり。二三歳より常にまねをして、いつとなく其末に馴れ染みて後にはまねに非ずして實に其事を行ふものなり。詞にて云ひを

しへては、小兒は智のなきものになれば。愛用せず、常に其能をしてまねさするは近道なり。されば父の身の行ひ正しき家の小兒は、夫れを見習ひて正しきまねをするなり。常にまねる故詞にて教へずして、自ら行儀正しきものなり。父不行儀をして小兒に見すれば不行儀のまねをするなり。詞にて不行儀を戒めても、道理を辨ふる智なき故其戒めに背く。大に罵り打ちたゞきなどする儀は却りて親を怨む惡心を引き出す基なり。夫にては不行儀直す事なし。又父行儀正しく見せて、其まねをするとも惡き他の小兒を友として交はれば必ず惡くなるなり。是れも惡き友をまねる爲なり。善き他の友と交はらしむべし。小兒は父のまねをして、善にも惡にもなるものなり。詞にて云ひ教へて、善き人にせんと思ふはまはり選にて早俄どらぬ事を願ふなり。(註一六)

と、小兒のする模倣による教育の効果を力説する。この結果友達選擇が重視せられた。又、陽明學者の熊澤蒼山は、

たゞ善事を以て大かきをして不善のたぐひを見せ奉らずいましめざれども不善なく、つとめざれにも善にならせ給ふ様にすべし。(註一七)

と性格教育の自然的教化について一見識を見せている。しかして、これらの模倣性の重視はいずれも、教授力と並べて教育者の模範性を重くみることとなり、一方朋友の選擇に注意を拂う結果にもなつた。ここから、模倣教育は近世の父道および朋友道論と關聯を有し、童兒期以後に入れば師道論とも

關聯した、また近世後期に強くなつた子供の心理の觀察はこの教法に同意し、それを助長した。たとえば、林子平（天文三—寛政五）は、「父兄訓」（天明六年）に、

子弟ヲ教ルニハ父兄タル人讀書手習及ビ文武ノ諸藝ニ意リナク身自ラ取行フベシ都而幼少ノ者ハ萬事人眞似ヲ致スモ、也其中ニモ天然ノ身筋ニテ父兄ヲハ別シテ他ニ並ビナキ者ノ様ニ最良ニ思テ何事モ父兄ノ所業ヲ手本ニスルモノ也（筆者中略）是不<sub>レ</sub>打<sub>レ</sub>叱<sub>レ</sub>シテ身ヲ持テ以テ子弟ヲ道引クナリ是ヲ德行トモ云如此ナレバ管戒スシテ子弟化服スル也父兄タル人は心掛ベシ（註一八）とゆう。

## B 遊戲の利用

次にあそびを利用することは模倣の利用よりも遙かにしばしば述べられている。例えば菴山は、それ慈父は幼童と共に戯れ、不知不識善を導き、知覺のひらくるに隨て、ともにおとなしく成がごとしと云う。（註一九）殊に武士の子弟教育については、氣詰りを排し氣象をのびた<sub>レ</sub>せるために積極的に遊びの利用が考えられた。松平定信は

少々<sub>の</sub>御怪我をも不<sub>レ</sub>被<sub>レ</sub>遊候様にのみ心得、餘りあらあらと申上候様之儀は、不可<sub>レ</sub>然事（註二〇）

として、非道なことの他はいたすらも見逃すことを述べており、稻葉壓齋は「幼君輔佐之心得」に、小兒の破魔弓を射たり狼をまわしたりなどする遊びは、成人の後は必ずやむから

嚴に法をたて、病をおこせば、それは、謀の過であるとういう。（註二一）しかし、この場合、いずれも子弟教育者はおとなしい人を選ぶべきであると述べているのは注目すべきことである。なお近世の子供教育の理想であつた忠臣の養成は特に幼いうちから遊びの間になすべきことが教えられた。たとえば、陽明學者菴山はこゝにも亦道德教育について、「殿様ことのおそびにとりなして君臣の禮儀をしらしむべし」（註二二）とゆう。しかし遊びによる性格教育では總じて遊び友達や保育者の性格が重視せられている。遊びによる教育は更にさきにみた模倣による方法と同様に、以上の性格教育のみでなく、知識教育にも主張せられ、遊びになすこと、又は遊びにいたすことが考えられた。伊勢貞丈は前文につづいて、

又小兒三四歳より、玩物には筆紙を授けて常に筆を取りて紙に墨を作る事をし習はせ、いつとなく筆をつかふ事をし習ひて、手習ひの時に助けとなるなり、（註二三）と述べており、江村北海は、好著「授業編」に、興味<sub>の</sub>所在に注意して、その利用に効果を考えている。なお、成童期の立志について稿を更めて詳しくのべたい。

遊びによる教育は以上の性格教育や知識教育の他に、劍術などの技術教育についても述べられており、十三四歳頃までは、本式の練習をしないで、遊びにことよせて、素地やよいすじを作ることが述べられている。

以上の遊びにおける興味の利用は、（三二頁下段へ）

# 季節の花や葉っぱや

## 莖てつくるおもちゃ (1)

瀧 田 要 吉

倉橋惣三先生から「シーズンにふさわしい路傍の草あそび」に關して一文を求められました。

眞畫を描くことが本業である私には、本誌諸先生のように幼児の指導に當つたこともなく、したがつてその教育的立場から云々することはばかられ、實はお引受けしてはみたものゝ、その上に主體が形のを文で説明する齒がゆさで、少々まごつてゐる次第であります。

『草あそび』の主旨としては大體拙著『自然物のおもちゃ』に書きましたのでこゝでは、草あそびとしておもちゃに利用出来る季節の草花で取材になるものを選び、それを種類別に分けてその作り方を大別し、基本的な意味から形態の觀察表現法を便宜上各章に分けて書いてみることに致しました。

花

(木の花)

### (一) 四月頃の

#### 利用できる花と草

うめ、もも、つばき、さくら、かわやなぎ、おしべい

### (草の花)

なのはな、ねぎぼうず、つくし、すみれ、れんげ、たんぽぽ、さくらそう、すいせん、その他

### 葉

### (木の葉)

やなぎの葉、つばきの葉、ひばの葉、

かしの葉、藤の葉、松葉

### (草の葉)

おおばこ、なづな、こうもり草、よもぎ、クロバー、すかんぼ

### 莖

三葉の莖、いたどりの莖、たんぽぽの莖、すぎな草の莖、こうもり草の莖、その他

### (二) 種類別と作り方

以上は私が今までにあつかつた四月頃の草花の大體の種類を記しました。地方により又所によつて出る時期にも違いが

ありましよう。よび名も違つてゐること  
とは思いますが、むづかしい植物學的な  
ことは許して頂くことにして、これらの  
種類から出来る遊戲上のおもちやを大別  
してみますと。

### 花のおもちや

うめ（うめの花人形）花を頭に見た  
てて千代紙を着せる。開いた花はお母さ  
ん、つぼみはお父さん。

もも（かんざし）椿の葉など二重に  
折つて合せめに花をならべ、これを糸で  
とめて髪えさす。

つばき（花輪、かんざし、人形）花輪  
は糸を通してつなぐ。かんざしは花の下  
部え棒を通して髪えとめる。人形はつば  
みを掌でもんで花辨をやわらかくしてか  
ら下えめぐり、芯を頭に見たて、下ろし  
た辨は身體に見立てる。

さくら（首輪、花輪、花くさり）首輪  
は散つた花びらを糸に通して首え下げる  
花輪は、同じく散つた花びらを松葉通  
して輪にする。花くさは、咲いてるまゝ  
を莖の根元からつんで、開いた花え莖の

もとを、またがらせつゝ連鎖してゆく。  
かわやなぎの花（おだんど）この花は  
花というより實の感じのすること、う  
ぶ毛のようなやわらかさを愛で、小枝  
などにさして、まゝごとのおだんどにす  
る。

おーばい「黄梅」（繪具）まゝごとの時  
木の葉などに盛つて、お菓子に見立てる  
もよく、色素が強いので水や紙などを染  
めるのに使うのも面白い。

なのはな（おひなさま）十五センチ位  
の長さに切り、千代紙に包んで、開いた  
花は女びな、つぼみの花は男びなとする  
又葉つばに包んでみづびきでしげれば葉  
の花びなとして、ひな段に風情をそえ  
る。

ぬきぼうず（おひなさま）莖の上のぼ  
うす玉を頭に見立てる。葉の花びなと同  
じに開いたものを女びな、つぼみを男び  
なにしておひな紙を着せる。向ぼうす玉は  
薄い皮をかむつてゐるので、その皮へ目  
鼻をつけると一そう可愛くなる。

つくし（とんぼ）花莖とも使い、花の  
ふくらんだ部分え、柳の葉四枚を翼とし

てさし込み、目玉をはやぶ、こうじの玉か  
南天の實などそえると面白い。

すみれ（押花）古くからの遊戲として  
は首引として、花のくびれ目を兩方から  
ひつかけて引つぱりつこする遊びもある  
が、押花として、古はがきなどをクレヨ  
ンで塗り、臺紙をつくり、それえ張りつ  
けて紐で吊すようにすると、面白い壁か  
けになり、自然觀察のたすけともなる。

れんげ（かんむり、花輪）かんむりは  
花莖とも四五本を使い、花を外側え出し  
莖を内側え編込んでまるめ頭えかぶる。  
花輪は花の下部の莖の部分を爪で割つて  
それに別の花莖とを通してながら、れんげ  
を連鎖してゆく。

たんぽぽ（花立）莖をちぎつたらざり  
口を爪で四つに割り、つばで濡めすと莖  
は外側えめくれてたまる。この變化だけ  
でも幼児は相當興味をもつが、このめく  
れを下え置くと足になつて花が立つので  
まゝごとなどにはうつてつけのものにな  
る。

さくらそう（お菓子皿）野生のものを  
使う。葉つばをお皿にして、花はちぎり



お皿に盛る。

すいせん（うで輪、とんぼ）一重の花を使う。莖を幼児の腕え巻いてしぱれる程度の長さで切り、四五ヶ所え爪の先で割目をつくり、それえ花をはさんで腕え巻く。尙葉つばの細長くて厚ぼつたいのを利用してやなぎの葉を翼にええと、とんぼにもなる。

### 葉つばのおもちや

やなぎの葉（とんぼの翼、かたつむり）葉そのものではおもちやにはならぬが、細長い特色を利用して翼に見立て、前述のつくしやすいせんの莖えそえてとんぼにする。かたつむりは葉を横にしていちようの實を中心ええるとそのまゝでかたつむりに見える。角には松葉二本ええれば尙よい。

つばきの葉（コツブ、水車の翼）コツブは厚くてやわらかさもあるので三角垂を作り、合せ目を小枝か松葉などで、とめると水がもれない。水車の翼は葉を半分程にちぎり、しの竹などにつけてもよく、にんじんや大根などえ葉元をさし込

み小枝を通して面白い水車が出来る。

ひばの葉（押繪）葉は押しておかなくとも大體が平たい形状をしているので圖畫帳などえ糊でとめ、前景え色紙でもクレヨンでもよいから鳥居の形をええと神社に見える。いちようの葉などええれば森のある風景が作れる。

かしの葉（草笛）新しく出た若葉を使う。人差指と中指で口えかるく押えて吹くと鳴る。別の方法としてまるめて吹いても鳴る。

藤の葉（しきりっこ）莖ごともしいで葉をこき落したものを幾本も作る。遊戲の方法としては五本なり十本を相手と同數にして掌から地上え投げると、莖と莖で交叉されたしきりが出来る。今度はそのしきりの中え凡そ入りそうなだけ莖を掴んで入れると、入れた數だけ相手から貰える。ルールとしてはこの場合掴んで入れた莖がしきりにふれると無効になる。

松葉 利用範圍の最も廣い葉である葉つばを主體としては、莖のついているままでは、すもう、柄をつけて、ほうき、組合せては、薙。鎖。かめの子。虫籠。

さし込んで作れるものでは、かんざし。旗。弓。椅子。人形。使つては、いちようの葉え組みましてつけるちようのひげ。葉つばえすげて、ぞうりの緒にするなど。

おおばこ（うちわ、三味線、お面）莖を根元から摘み、そのまゝでうちわの形状をしているが。葉元の方え、こうもり草の穂など横えさし込むと面白い。三味線は莖を折つてしづかに引つばると中から莖の芯が三四狀出る適當に引出した所で小枝にむすぶと、三味線の形状になるお面は葉つばえ爪の先で目口をあけ、先の三味線のやり方で芯もとつて耳えかける紐として、目の兩側えええれば尙よい。なすな 結實した實の殼が丁度三味線のばちのようなかつこうをしているところからペン／＼草とも云われている。莖からもしで、耳のそばで廻すと可憐な音を出す。

こうもり草（こうもり、ほうき）いたる所の野道にある草で、その穂がこうもりの骨を思わせるところから此名のきたもの。穂を下部えまるめて同じくその穂

の一本を利用して結ぶと、丁度こうもりのようになり、むすびめの所を下ければつばまり、上げれば開く。ほうきとして三四本を寄せ同じく莖で莖を二ヶ所穂の所一ヶ所むすべよい。

よもぎ（繪具）色素が強いので葉そのものを紙へ塗つてもあざやかな緑色にそまるし、小石などでついて汁をつくり水えまげて色水など作るのも面白い。

クロバー（圖案）全體に大小なく葉の形體がそろつてゐるのを利用して、押葉をつくり圖書帳などに張合せると面白い圖案が出来ゐる。幼児に描かした繪の周圍などにはつてやると頗ぶち的な効果も得られる。

おかんぼ（人形）文字では少々説明がむづかしいと思われるが、莖ごと摘んで二つに折り、その折目を頭の部分にし、莖の二本を足を出して抱き合せるようにし、おおばこの莖などでしぼる。

莖のおもちや

三葉の莖（筍）三四センチ位に切り太い方を吹口にしてふくと面白い青色が出

る。音の高低は莖の長さ太さによつても違ふ。

いたどり（水車、花たて、手桶）山村ではいたどりと云われてゐるが里ではすかんぼとも云われてゐる。莖が草にしては太いのと、無害であるため嚙じるとほろ苦い味がする。水車の作り方は五センチ位に太めの所を切り爪で割れ目を入れると自然に外側を向つて丸くめくれるので芯え小枝を通して落し水えかけると、めくれた所が翼となつてくる／＼廻る。花たてはこのめくれを片方だけ作るとよいのでこれが立つ役目をするので丁度筒え開いた足をつけたと同じになる。手桶は十センチ位に切り半分位の所から手を取つて小枝をさせばよい。

たんぼの莖（筍）約中心の所え爪で割目を入れ、つばで濡めして吹くと青色が出る。

すぎな草の莖 無數に節のあることゝ一度引抜いて又はめ込んで解らぬところから相手に知れぬように抜いてはめ込みその所を當つこする遊戯。

こうもり草の莖（筍、編もの）莖が細

長くて太さの變つてゐないところから、長いものを選び筍に編む。編みもの。交互に組合せることによつて小さな數物のやうなものが作れる。

以上で大體の種類と種類別のかんたんな作り方のことをしるしました。形態の觀察、表現法は次號で述べることに致します。（つゞく）





## 街の片隅の幼児教育にも夢はある

——若い保母さんに——

(都會の保母の思ひ出の記の一節として)

鈴木とく

三月は、保母にとつて、夢の一休止であり、又、新しい夢を描くための、忙殺の時でもあると、私は、毎年、そう思うのです。

数々の夢を抱いて、いつくしみ育てた幼児たちの、門出を祝いながら、小學校入學の、喜びに溢れている幼児たちに、未來への期待はかけながらも、必ずその通りになるということの望めない、果敢ない美しさを、幾年か経験した事でしょう。

そして又、新しい幼児たちと、新しい年度を迎えるためにこの、かなしい美しさの中で、次の夢を見る喜びを、そこはかとなく感じた事も幾度のことでしょう。

陽のかけに、春を感じながらも、なお、冷い風の去りやらぬ三月は、私にとつて、あの、恐しい、なかば天災とも思はれる、三月九日夜から十日朝にかけての、「火と風の街」の年以來、悲しい思ひ出の月ともなつてしまつたのです。焰の

中に、母を呼びながら昇天していつたであらう幼児たちのことを思うと、たとえ、育んだ月日は、三年の短いものであつたにせよ、何とも云えない、身を切られる様な切なさを感じるのである。その切なさから、子供たちとの生活の思ひ出を、淺春の陽かけに、あくこともなく、たぐるとき、空の彼方のこども達との、さうやきともなるのです。

こども達との生活の思ひ出を語るのは、保母としての私のこども達への懺悔であり、冥福を祈る、さうやかな、捧げものでもあるのです。

スラム街の片隅に、世間から忘れられていた幼児たちとの十餘年の生活を、ふりかえつてみては、語りたくなるのも、兒童福祉法が出来て、こうしたこども達はあるとより、日本のすべてのこども達へのしあわせのために、前途に明るい道が開け、教育法が新しくなつて、幼児も、堂々と、教育の對象として重要視されるようになつたいま、幼児たちのために、新

鮮な、バラ色の朝の空に感じる様な「夢」を抱かなければ、と願う氣持からです。

☆

おそらくは、こんな所があるなどとは、思つてみたこともなく、行つて見ようなどと、考えてみたこともないであらうと思はれる、この、東京のイーストサイドにある保育所に來て、働いてみよう、決心されたこと、洪水の跡の、汚い館内の清掃を、黙々として幾日か續けられたことを、あなたの生い立ちからおもつて、卒直に云えば、十年の間に、いや短い人生に、いくたりとも得られない、よき働き相手を得た喜びを、深く感じました。私も、あなた位な年に、この江東の街を來た時は、ほんとに偶然の様なもので、こんな街や、こどもたちのことを、考えてみたり、歩いてみたいと思つたりしたこともなかつたのです。こゝへ來てみて、若い私のヒューマニズムが、何かをしなければ、と感じたことから、生活の大部分を、保育の仕事に傾け始めたのでした。

二十代の夢も、三十代の夢も、懐しく残る街を歩きながらそこで見た、私の夢や、感情の流れや、思想の動きをお話しても、十年餘の年の隔りは、あなたのために、通うものがあるかどうか、わかりませんし、思想や、感情の流れに起る喰違いを、感じ取ることすら、私には、難しい様に思えます。十代、或は、それ以上も年上の人の、考え方や、生活感情の流れは、理解し得ても、十年餘も隔る若さの生活感情を、確かに感じ取り、理解することの難しさを、しみじみと思うと

き、時代感覚が鈍くなる、と云うことが、どんなことを、身にしてみても、感じられます。私の語る、過去の人としての保育の夢を、新しい感覚でとらえて、批判してほしいと思います。

ともすれば、頭に、古くなつて行きそうな私に、幼いこども達のため、新しく夢を見るヒントを與えてほしいと、虫のいゝ希いを持ちながら、斷片的に、お話ししてみまじよう。

☆

「どんなに理想の社會を想い、憧れ、願つても、この國の大部分である勤勞者（知識的勤勞者は、まあ一應除いて）が、文化的に高まらなければ、自分達の生活環境を、より高めようとする意欲は起らない。幼い時の育てられ方、環境の如何が、成長した後の心に、根を殘して、そこから、より高さを望む芽が、伸びて行くのではないかしら。精神的にも、物質的にも、恵まれた家庭環境を持つ幼児を、より以上に、教育の力で良くして行くことも大切だけれども、街の隅に、放り出されてかわれられない、勤勞者の家庭の幼児こそ、それ以上に、教育されなければならないのではないかしら」と、思ひ續けたことが、託児所——保育所——保育園と、名稱こそ違え、その内容は、經濟的不如意から來る、父母の勤勞から、その大切な成長の時代を、あまり省られない幼児の保護と教育をしている所、そこから、私を、ぬけられないものにしたとも云えます。

「身のほどを知らぬ、たかど、東京の街の小さな一角のこと

も達を、そうした所で、どうなることか」と思えば、實に果敢ない仕事でもあり、その仕事への夢でもありましよう。私が、保母になつた頃は、一九三四年以降の不況時代でしたが戦争の間も、この思いには、變りなかつたのです。——たとえ、大東亞の主になつたとしても、アジアの諸國に出て行く未來の勤勞者が、元氣で丈夫な、そして優しさを漲らした、文化的に高さを持つた者でなければ、日本は、世界の喰い者になる——、と思ひました。そして、はじめに敗れて武器を捨て、新しく文化國家として生れかわろうとする今、尙さらに、衝に忘れられがちな幼児の教育にこそ、思いを致し、未來の文化國家を計畫しなければ、と思うのです。

或時は、失望の谷底に身をひそめて、自分の生い立ちや、性格から来る、どうにもならないものの疑問に悩んだり、不勉強の行詰りからくる杳然自失の愚さを嘆いたり、その中にふとなにか明さのさし込むのを覺えて、希望の山をめざして再び歩き出したり等、波の多い歩き方をして、ともかく、年を古くして來たのは、私の心の底に流れる、ヒューマニズムと、ニヒリスティクなもの、そうさせた様に思はれます。

☆

この街は、今でこそ、家もまばらに、また雑草と、焼跡のがらくたに埋る空地もありますが、私が保母になりたての頃は、密集家屋と、煤煙の街でした。その街のこども達に、先生、と呼ばれるようになった時、私は、何時迄も、このこと

も達の、「先生」でなく、「いゝお友達」でありたい、と思いました。そして、願つたことは、このこども達が、大人になつてから、勤勞者であることに、本當のプライドを持ち、人から指圖されたり、おだてられたりして動いたり、言いたい事も、云えずにいる半面、弱い者を、暴力でいぢめたりするようなことがなく、言いたいことを自由に主張し、自分の考えと意志とで動く、自主的な、しかも協同社會で、他に迷惑をかけることを、恥しい、と思うような人になつてもらいたいものだ、と云うことでした。

託兒所だから、たゞ怪我をしないように、お守をしていれ  
ばよい。

託兒所だもの、幼稚園のように、やれ遊戲だ、やれお繪描きだ、折紙だ、お坊ちゃん、お嬢ちゃん、のする猿まねの様なことはさせなくともいい。汚い鼻たらし小僧に、何をやらせたつて何の叩きがあるものか。

貧乏人のこども達は、これ以上、どうにもなるものじやない。母親達だつて、何がありがたがることか。

等々の、大人達や、同じ仕事を、しかも長くしている人たちから聞く、これらの言葉に、何ともいえない憤りと、反ばつを感じたのです。私は、今も、若いその憤りや、反ばつを

懐しく思います。そのことが、こども達への愛着と入れまじつて、何とかやつてみよう、勉強してみよう、という氣持にさせてくれたからです。

——自主的であらせたい。協同的であらせたい。弱い者、年下の者に優しいたわりと、親切の持主であらせたい。そして、伸びくとした自由な氣持を持たせたい。

文學もわかり、音楽も愛し、劇も好む等、そうしたものも養ひたい。——

粗末な着物、身なりも餘りかまわれない、腕白共を相手に次から次と、こんな望みが湧いて来るのですが、さて現實は出来ないことだらけでした。それなのに尙、まだ何かこの上夢を見つづけたい等と思うのは、ほんとにお人よしの、理想主義者かもしれませんね。

——幼児の生活の場が、何故、小學校的な匂いがしなければならぬのかしら。觀察、お話、唱歌、遊戲、手技等、何故、あんなに難しいものや、長い時間、我慢してやらなければならぬものなどを、年令別にかたまつてしまつて教えられなければならぬのかしら。何故、あんなに、何もかも、手傳つてあげなければならぬのかしら——。

幼稚園の保育を、聞いたり、見たりし、又他の保育所を參觀して、たゞ單に幼稚園のまねをすることに力を入れている様子を見たりして、こんな風に感じたのです。

——家庭で生活したり、街頭で遊んでいるこども達は、何時も／＼あんなに、はつきり年令別にはなつていない、年上

の兄弟に、いぢめられたり、助けられたり、年下の友達を、からかつてみたり、親切に面倒みてやつたりして、生活しており、その中で、色々と感じたり、感じたりしているのではないかしら。一日の長い時間を生活させなければならない保育所で、何から何まで、幼稚園のように、年令別制據主義でする必要もなさそうに思う——。と考えたのは、社會生活の協同性と協力を養ひ、年下の者、弱い者を勞る氣持を培うのに、どうしたらいいのかしらと思つた時です。そして、他の人からの助言もあつて、保母のみんなと話し合ひの上、年令別の組の分け方を、居住地域別の、年令混合に編成しなにして、保育をしました。

思えば、兒童心理もよく勉強せず、幼児の發達過程についても、何の研究もしていない者の無謀さ、だつたかもしれせん。

この保育は、年長兒の、知的なものを、おし進める時と、年少兒の、基礎的な生活習慣の自立を訓練することに、不都合と、取扱ひの技術的な難しさを感じて、そうしたものの場合は、年令別に集つてするように、變つて行つたのですが、生活的には、とても和かで面白かつたし、今、思い出してもほ／＼えましくなる、こども同志の、たすけ合ひ、いたはり合ひの情景や、地域的な母親同志の親密度の深まり等がみられて、よい面もあつた、と思はれるのです。このことは、十四五年も前に、初めて、試みたことでしたが、その後、淺草、深川、再び本所と、街の片隅のスクラムにある保育所へ移つた

度に、保母同志が、自分の組にたてこもり、その組への愛着と責任感の強さの餘り、保育所で生活する、全幼児のつながりに關心が薄いのを感じました。これは、保母同志が、感情的對立をしているのでなくとも、教育的に、全體の相互關係ということ餘り深く考えていなかったからだと思います。

そのために、年長児が、遊具に對して、獨占的だったり、專制的だったり、ボスのリーダーに、ペコ／＼したり、年少児に對して、暴力的だったりするのが、目立つて感じられたのです。その度に、一日の生活の或所に、年令混合的な生活をさしはさむように試みて、それを和らげることが出来たのを感じますと、この事を、全面的に否定し切れないものを感じるのであります。

この、幼児のクラス編成或は、グループ構成について、協同社會を、より良くすることに、快く協力する人として生長するために、幼児の心身發達過程からと、教育的見地から、勉強を進めて、新しい保育の夢を抱いてほしいとねがうのです。

☆

地域的なグループを作つた頃の保育所で感じた、助力的な與える色の濃い幼児文化材を使う保育に、何か、わり切れないワクを感じ、それをする前に、何かあるように、思えて仕方がなかつたこと、漠然とではありましたが、自分のことは、自分でする習慣、幼児にやれる、日常生活の様々な事は、主として勤勞的なことは、それ自身が、幼児の教育となるの

ではないかしらとかんがえ、生活の技術を身につける様な保育のしかたに、重點をおいてきたのですが、十五、六年たった今、漸く、それが、間違つた事ではなかつたと、わかつて來ました。

保育所にある、ピアノもオルガンも、人形芝居の人形も、紙芝居も繪本も、ラヂオも蓄音機も、みんなこども達自身のものとして使えるようにするために、それ等のもので、一日の生活を、楽しく、友達と協力して過すためには、こども達の間から生れ、又は、保母の助言で導き出される、規律や習慣が、いつとはなしに身につけていなければ駄目でしょう。私と三年保育を共にしたこどもたちは、(中にはあしかけ二年位の時もありましたが)自由に、楽しく、よそでは、先生だけが使う物を使つて、遊んだのです。

一生の中に、ピアノ等弾いて楽しめる、身分になれるかどうか、わからないこの環境のこども達をおもうと、ホールの一隅に、どつしりと据えられたピアノは、何故、先生だけのものにしておかねばならぬのかしら、と思つたからです。他の物についても同じ考え方なのです。

☆

各組の机や椅子を、何時も部屋らしく、揃えておけない環境にあつたこども達は、重い机は二人づゝで、椅子は各自で一日に、二度は、運んで並べたり、しまつたりするのを保母と一緒にしました。等でホールを掃除したり、雑布巾がけを手傳つたり、便所の戸を綺麗に拭いてくれたり、色々な仕事

を喜んでしてくれました。今なら、何でもない事でしようがその頃は、「あんな小さな児に、パンツをはくのも手傳つてやらない。掃除までさせて、可哀想に」と云う聲の多かつた時代だつたのです。

お八つの後の話合いに、机片づけに對して「僕はいやだよ」と、はつきり云う保君に、「なぜ？」と、きくと、「何時も何時も、僕と、とし子ちゃんだけ、おしまいでするんだもの」と、理由を云うと「みんなで代る番にすればいいわ」と、提案を出すとし子ちゃん。

グループの名前も、皆で云いあつて、好きなものをつけるし喧嘩があれば、見ていた皆で、話合つたり、言いあいをしてりして、保母と一緒に、納得のいく仲なおりをする様にしむけて行きました。

朝、給食當番の保母と一緒に、市場に買物に行つて、野菜を揃いだり、お八つの風呂敷包を持つたりするのが、どんなに楽しいことだつたのか、男の兒たちも、馬鈴薯を洗つたり玉葱の皮をむいたり、それを、お勝手迄運んだりするのが、どんなに愉快なことだつたのか、私は、かつての、この子ども達の、ビチ／＼した楽しそうな生活を思うと、今、此處の子ども達に、もつと彼等に適した設備をしてやつて、時には、お八つのハツツケーク位、みんなに焼いてあげて嬉しがる顔を見たいなあと、夢を見るのです。

保育所での長い時間を、或所は、狭い意味の教育的扱いに或所は、家庭的に、しかし、全體として、ホームライクなもの

のを濃くして、のんびり、自由に、しかも放任でなくやりた  
いのだなあ、と思うのです。

☆

戦争のために、直接に、間接に不幸な思いに、打のめされ  
た母を持つ幼兒たちのために、楽しい生活の設計を想いませ  
んか。

ホールの正面に、暖爐を築いて、冬は、パチ／＼燃える薪  
をみながら、童話でも聞かせたい。ピアノの脇に、ソファと  
客用のテーブル、椅子等をおいて、子供たちの遊ぶ姿を見な  
がら、お客様と話をしたい。お茶を出したり、お菓子をする  
めたりすることもさせたい等、とおもいませんか。

——出来ない相談だ。文化的に、生活的に低い親を持つこ  
ども達に、そんなことをした所で、希望や、期待など持てる  
ものですか——と、あきらめたり、悲觀したりする前に、ほ  
う、あの子ども達の、はちきれる微笑を、私は夢にしたいの  
です。

今日は、グループについてや、私の保育の考え方など、と  
りとめもたく語りましたが、又いつか、この街を散歩しなが  
らでも、他のことについて色々と思ひ出話を聞いて頂きまし  
よう。そして私の語る保育さんげが、あなたの保育に、若い  
人へのみゆるされた、素晴らしい、豊かな、美しい夢を描く、何  
かのよすがともなれば、とねがうのです。

忘れられた、街の片隅の幼兒教育にも、見れば見果てぬ夢  
がかくれているのを感じとつて下さい。





## 伊豆山童園記

伊豆山童園長

中田保

遊覽客の財布を目當に喰つていて、生産施設の一つもない特異都市熱海は、幼児保育機關の發生狀態も又變つていて、全國的にも恐らく類例の少ないものであらう。

即ち、熱海市では、公立の幼稚園、保育所が一つもなく私立の保育所が各地域ごとに九ツもあり、そしてその九ツの保育所の内、七ツの保育所の園長さんは、お寺の住職か神社の宮司又、教會の神父さん達である。

その園長さんの中の變り種であり又奇人とされているのがかくいう私で、私の職業は、熱海の郊外温泉村である伊豆山の旅館のオヤヂであつて、本年三十二歳の青年（？）であることが餘程風變りであると思つて、新聞種になつたり、保育關係の最高權威雜誌である、この「幼児の教育」

に顔を赤らめながら文章を書かねばならないハメになつてしまつた。

青年の道樂としては、大變な冒險であり、なんと奇特な行爲であると思われ、童園開設當時はこのせまい部落では、私の友人の惡童どもは口を揃えて『可愛いそうに彼は老衰した』ともいわれ、仲には『お寺の坊さんの袈裟を掛けたらどうか』——とも惡口をたゝく者も出てくるしまつてあつた。

こんなウワサも、私の教育者としての知識と經驗の缺除を心配した人々の、危險視であり、憐愍感の同情的言葉であると考え、私の心の半分は、有難い忠告として甘受し、もう一方の半面では「なにクソ！必ず成功して見せる！」

と反撥したことであつた。

.....◇.....

この伊豆山は、熱海の中央から一里も離れ、村は雛段の様な階段状になつており、道路は總て坂道で、嘗て某書店發行で發刊された、中等學校用地地理教科書に、典型的階段部落として、寫眞がのつていた程で、この村に七百の世帯と、約三千五百の人間が住んでいる。

従つて、幼児は戸外の遊び場所がなく、隣近所を行くにも坂を登り降りしなければならぬ危険があるため、どうしても家庭内で遊ぶことが多くなつて、肉體的には運動不足になり、心理的には、一人つ子の様に社會性に缺ける結果になつて、村の地形が幼児の教育環境に悪影響を及ぼしている點が憂慮にたえなかつた。

又村には小學校もなく、まして幼稚園や保育所もなく、教育機關が一つもないことは、村人の不幸であつた。こうした村の狀態から幼児教育の焦眉の急が、若い人達の間で叫ばれ、又村の教育機關の先驅的意圖も同時に手傳つて、保育所設立の空氣が醸成され、昭和二十三年五月に私自身がその音頭とりとなつて、保育所設立の研究と準備にとりかかつた。

.....◇.....

保育所の位置としては、村の中央にある、お寺が最適と

考へ、又輿論調査の結果も寺を希望する者が多かつたのと、お寺には廣い敷地と、大きな建物があり、即座に開園出来る可能性があつたので第一候補地とした。

どうかすると、寺は葬式の間だけであり、祖先のための佛事の氣休め場とのみ考えられている現在、村人の寺への無關心さをなんとか回復するためにも、保育所開設は誠に有意義なことだと思つた。そして寺の住職も又共鳴したので、壇徒總代の老人連中を口説きにかかつた。

住職は、保育所開設を賛同したが、積極的には動かなかつたので、私自身が總代に個々に接渉したり、又寺總代會の席上で、保育所設置の必要を十數回も説いた。然しいつも「お説、誠に結構」を繰返すのみであつたので、私は昨年の正月の終に、保育所經營は財政的に不利を理由に斷わられてしまつた。

それで半年間の努力も水泡に期したが、私はむしろ反撥心をあほられた形もあり、保育所設置の決心を尙一層強く燃したことであつた。

そこで、昔、青年夜學校があつた所で、現在村の公會堂ともいふべき建物に目をつけ、この建物の管理者たる青年會を説得、これを借用する事になり、ようやく念願の保育所建物も決つたので、昨年四月、伊豆山童園設立準備會（假稱）を正式に作り、六月初旬開園をめざして、若い人々

の間で準備を急いだ。

.....◇.....

開園準備の第二着手として、保母の募集を始めた。私は保母の應募者の中から、無経験な、優秀な若い人を四名採用した。その中から三名を學級擔任に、一名を庶務給食に當てた。

保母採用に當つて、敢えて保母経験者を採さず、又採用しなかつたのは、第一に職員間のチームワークを考えたことと、園長としても経験者の保母に、全てを教はらねばならないことであつた。それは負けず嫌いな私のプライドが満足しないことであり、又経験者の保母がいると、他の初心者の保母達は依頼心をおこし、研究心や向上心をそぎ、それに加えて、経験者の保母が、かつてどこかの園で身につけた習慣やクセを押し賣りする結果になり、この伊豆山童園の新しい雰圍氣を作るべき情熱的欲求が失われる點を怖れたのであつた。

三十歳過ぎの未亡人等の保母志願者もあつたが、若い人でないと新時代の教育方向をそしゃくし、考へ方の轉換が比較的困難であらうと思ひ採用を見合せた。

自尊心の強い、向う見ずの園長ではあるが、私自身は、この新しい教育的未知の世界を必死になつて研究し、創造して開拓者のスリルを味わいたかつた。それは大變な勉強

の時間を必要としよう。心を苦め、體を削り、本職の營業にも大きな支障をきたそうが、然しそうした苦勞を楽しみたかつた。

幼児教育には、みんな無経験な保母達と園長は、同じスタートラインに列び、一せいに保育者としての勉強の競走に出發し、苦しい競走ではあるが、遠い理想の灯を目指して懸命の努力を續けて、園長は必ずや絶對的な優勝者としてリードし、保母達を誘導すべき堅い決意と責任を痛感したものであつた。私は保母達には負けない自信と努力を心に誓つていた。

そうした開園當時の方針と決意は、大した誤りでなかつたことが今になつて證明されている。

私が園長をやる豫定ではなかつた。童園設立迄のお膳立は私が主唱者の責任としてやるにしても、園長は比較的體に閑のある老人を頼もうと物色したが、村の老人には適當な教育人がなかつたことと、非常に大變な仕事である豫想と、無給であることが原因してみつからず、私が設立、經營、教育の責任者とされ、従つて園長もおしつけられる結果となつてしまつた。

童園設立に要す費用、十數萬圓も私が立替え、開園後に父兄並びに一般から寄附を仰ぎ、村中の人々がもり立てた童園として意義あらしめたい考へであつた。

伊豆山童園設立準備會は、後に伊豆山童園經營協議會となり、發起人と母の會役員と、後援者を以て組織し、後援團體として、母の會と後援會を作つた。この童園を設立するまでは、私の友人達の若い小學校の同窓生二十數人の人々の献身的努力があつた。

即ち、その仲間の内には、家具屋さんあり土木請負師や植木屋さん等、種々雑多な職業を持つた者が含まれてゐたため、机や椅子は家具屋さんが作り、砂場や便所は請負師がそれぞれ實費で奉仕してくれ、又村の有志達は進んで、材木や遊具の寄附を出して、開園準備は、村中の教育愛好者達の待望と大なる聲援のうちに急速に進捗した。特に村の奥さん達の感謝の聲は、絶大なものがあつた。

かくて保育所、伊豆山童園は大きな希望と、發起人たちの犠牲と夢をのせて、昭和二十四年六月十三日、正式に晴れの開園式をあげたのであつた。その時の園児數は一〇二名であつた。

開園前後から、熱海童園長の奈園先生は、保育所經營九年間の經驗から、經營の手ほどきから、保育の實際に至る迄、赤子の手をとる様に、その蘊蓄を傾けて指導して下さつた。先輩や保育關係官廳の人々の温かい精神的援助は、

何よりも私を力付けてくれた。そうした人々や郷黨の助言や熱心な聲援に對し、自責の念を燃やし、成功せずは止まる決心を愈々強くした。

開園後、幸いにも、幼児保育關係の本は、續々刊行された。そして私は片つ端から自費でそれ等の本を買つた。早く知識を得たい衝動にかられてゐた私は、仕事の餘暇を盗んでは、三十數冊の本を文字通り讀み飛ばした。

私が幼児教育の餓鬼の様に知識の探求に勉めてゐる間に保母達も保育の實踐に従事しつゝした勉強が芽を吹いてきて、十一月三日の運動會の成功は、村人に感嘆の叫びを上げさせる程に發展した。

保育は失敗の連續であり、一進一退を續けた。時には保母達は、自身の能力を卑下し、保育の困難さに悲嘆する者もあつたが、私は常に鼓舞激勵し、そして勉強を強請した。總ての本には全職員の讀了日を記入させるように命じた。それは保母の腹には、園長の態度が冷酷に響いたのである。『園長さんは冷たい人だ』……ともいわれた。然し私は努力を讚美し、怠惰と無爲と非能率を排斥した。

認可になつてゐる市中の多くの保育所は給食物資の配給をうけて、給食を始めた時に、未認可の私の園もなんとか給食を開始したりした。

私の目標は、一日も早く、古い保育所と同じ程度に保母

や保育内容を向上させる事だつた。そしてそれは開園してから、六ヶ月でほぼ達成された。

『問題の子供』も減少した、子供達は伸び／＼と元気に遊んでおり、社会性もついてきた。保母達も雨の日には「やる事がない」などといわなくなつた。

私が保母達に強く要求した烈しい精神労働は、保母達と園を一段と向上させた。それは保母達がよい素質を持つてゐる故に一層倍加されたものであらう。

確かに伊豆山童園は、新知識の吸収消化に夢中であり、清新の氣と、理想を追求して止まない若さがあるのであらう。

けれどもそれを反面から考えると、それは精神年齢の若さの苦惱であり、経験と學識の低さを意味し、理論の空轉であり保育方針の無軌道の證左ともいふべきであらう。

.....◇.....

この様な事柄は、全國幾千かの保育所や、幼稚園創立者の誰もが體驗したことであり、私の幾十倍も苦心した先輩諸氏も數多いことであらう。

私のチョットした思い付きが、かくまでに發展し、奇人といわれたり、名物男にされたりして道樂としてはとんでもない結果になつて、引くに引けない立場に追い込まれてしまつた。旅館營業と童園との二つの世界の欲深い向上心

は、今さら乍ら自分で自分を苦しめるばかりであると思ひ自分の性格にあきれている。

結果からみると、童園長としては、その無鐵砲者を、幸運の神に味方されただけが業績の總てであらう。

## 幼児の 二月號

## 幼児の 三月號

カリキラム論の立場

吉田

保育の廣い視野

秋田

遊戲治療の諸問題

相場

新しい保育

副島

フレーベル著「リナは如何にして讀み書きを學ぶか」(六)

莊司

幼稚園舍構造の一考察

守安

幼児の心理的發達(八)

山下

記録・官廳公示連絡事項

幼稚園教育課程・幼児指導要録協議會・其の他

先生方の休養

倉橋

性格形成論

波根

戸外保育と日光

平井

年中行事と保育

内山

保育に於る生活ばなし

上澤

子供讀歌(六)

倉橋

東京都保連のカリキラム立案に當つて

松石

幼児の心理的發達(九)

山下

記録・官廳公示連絡事項

兒童福祉法による措置等のため支出する費用の限度・其の他

# 我が園の再建築



名古屋市立第三幼稚園長

浅野 壽美子

戦災をうけた幼稚園は其の後中々復興が困難で、幼児教育の爲にまことに遺憾にたえないことと存じます。私も其の中の一人として言いつくされない程の困難を克服しながら、漸く一部分ではありますが園舎の建築にかゝつて居りますこととて『幼児の教育』のおもとめに従い、一つの小さい経験として御参考になれば幸と存じ、いさゝかその経過と建設中の設計等につきお話させていただきますと思います。

☆

一 建設の運びに到つた経過について  
昭和二十一年二月からこちらへ小學校の一隅に、設備もない教室に、自由に遊べない運動場に、どうしたら、幼稚園らしい環境をかもし出すことが出来るかと私共は一通りでない苦心をつづけてまいりました。そうして、以前の機跡からはほど遠い新しい土地ではありましたが、是非ともこの近くに園舎を建てよ、この土地に居つて貰はねばという在園児修了児の父兄其の他有力な方達の熱望によつて、市立第三幼稚園復興後援會が結成されたのは昭和二十三年十二月でありました。

土地の選定、資金等について考へられると共に市當局並に教育委員會へ、建設費の一部

は負擔致しますから一日も早く園舎の再建を進めて下さいと、度々の陳情にまいりました。

然し初めのうちは『幼稚園の必要性は充分認めているが、義務教育機關である小中學校の復舊が出来ないのに幼稚園に手をつけることは大穴敷い。今暫く待つてほしい』とのお答えよりいたゞけませんでした。しかし、後援會の役員の誠意は皆様の心を動かし、建設費の一部を負擔すればそれに相應する助成金をもつて園舎の一部を作らうという市當局の言質をとることが出来ました。こゝに於て一同希望にもえて資金の調達に進みました。

☆

會員の寄附金はもとより、演藝會、パサー等々次々と計畫されました。會長は人望家であり二十年前の修了児のお父様でした。顧問には土地の公職者をいたゞき、役員の方々の中には前年度既にお子様の修了された方も多かつたのですが、皆我が事の様に、募金の爲に、毎日々々歩いて下さいました。その御熱心なお姿を幾度心の中で拜んだことございませう。

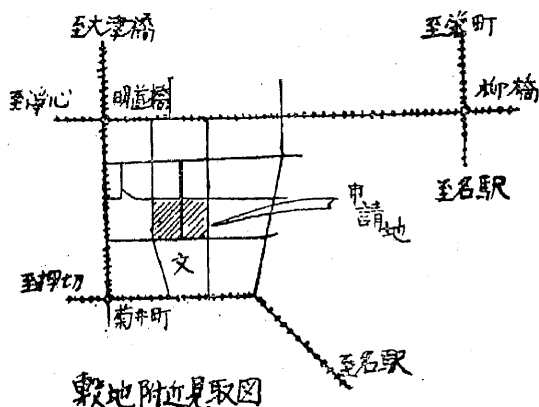
『園長ががんばれどんな苦しみにも負けるな』と皆様から暖かい、勵ましをいたゞいて、と

☆

★

私の案としては、遊戯室（一）保育室（八）

〔十六坪一〕同〔十二・七五坪一〕休養室  
〔五・二五坪〕職員室〔十・五坪〕應接室  
〔六坪〕小使室〔七坪〕便所、物置その他、  
總建坪（二三〇坪）の、建築にかゝることに  
なりました。



市建築課の技師都築氏はよく私のむづかしい希望を容れて、幼児の世界をいろいろ研究し、苦心して設計に當つて下さいましたの

で以下その留意された一、二の點について記していただきます。

「一此の幼稚園を設計するに當り、私は自然との融和に重點をおき、子供の世界を少しでも澤山の夢で盛り、楽しい雰圍氣として、園児達が成長の後も幼かつた時通つた幼稚園の美しく、楽しい想出を懐かしませるに足る環境を建物によつて創り出す様に心がけました。

二 保育室は劃一的ではありませんが全部南に面し、廊下又は花壇を配した「テレス」を隔てた中庭に面し、全部開放出来る引込戸とし北側は窓を高くして壁面を多く致しました。中庭は屋根のない保育室と考へ、そのつながりを滑かにすることに努力致しました。十二坪のせまい部屋は廊下を保育室の一部とすることが出来る様に考へ、又室内の家具は出来るだけ造りつけとする様に計畫致しました。

三 遊戯室、職員室、應接間、休養室を配したこの一棟は遊戯室であると同時に、時には講堂ともなるであらうこの室の構想には、非常に苦心し、上品なしかも明るい楽しい場所とし、三十尺もある硝子張りにした吹抜のある階段室（階段室並にギャラリ

）等は園長の言によれば子供達の圖書室ともなり、お話し出来る場所であり時にはお母さん方の圖書館にもなる機有効な場所としたいとのこと（です）を昇れば、遊戯室が階上から眺められ、その一部から滑り臺によつて遊戯室に下り降りれる様にし、來客もこうした幼児達の雰圍氣にひたつて應接室に通る様にする等、空間構成にも可成努力致しました」（都築氏談）

私としてたゞ一つ残念なことは、技師と共に上京、文部省にも園舎に對する御意見を伺い又幼児教育の權威者であられる倉橋先生及川先生にも色々御指導をうけたにかゝらず期日が迫つて設計の變更が出来なくなつたこと敷地豫算の關係其の他數々の理由の許に實現出来なかつたことの多いことを申譯なく遺憾に思います。其の一つは、最も大切である男女別の便利をつくれなかつたことであります。然し、第二次工事を致します時に今一つ便所をつくりますので、その時には、實行出来る様に致す心組でございます。今後新しく御建築の場合は決して、私の失敗をくりかへされぬ様、慎重に御設計下さいますことをお願い申上げて此の稿を終りたいと存じます。

（設計見取圖次頁参照）

## 保育研究會責任編輯

### 月刊 保育の友

がいよいよ創刊發賣となりました。

十二月誌上で御知らせいたしました厚生省兒童局保育課内・保育研究會責任編集による、標題月刊誌の創刊號が出版しました。御購読御希望の向きは各縣の兒童課又はフレールベル館代理店に御連絡下さいませ。（一年分六〇圓）

### 創刊號目次

保母は優秀寫眞技師でなければならぬ 高島 敏

### 一九五〇年の保育界にのぞむ

谷川・平田・山下・秋田・平野・山口外

自覺の年 副島 ハマ

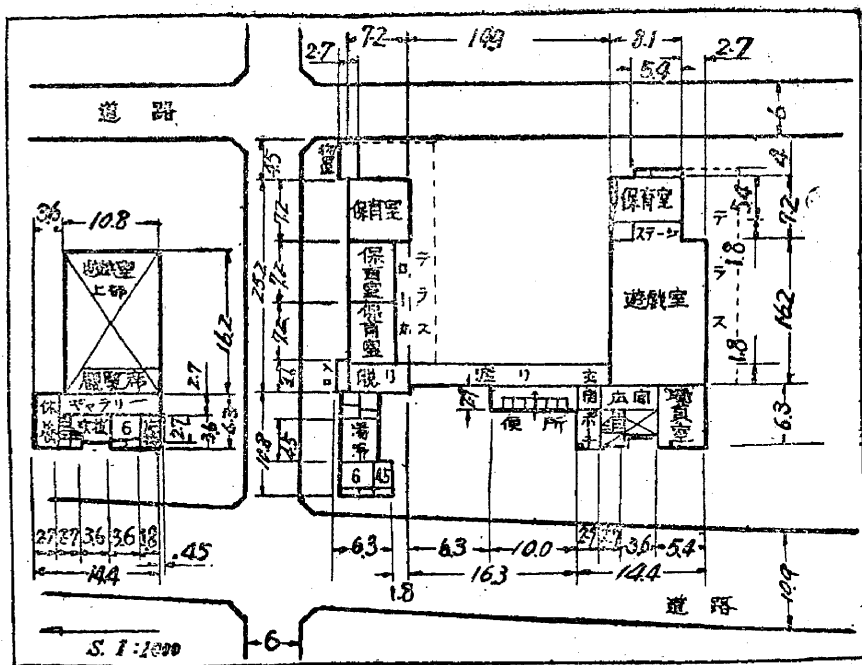
保育のあり方 吉見 靜江

施設の素顔 小林 彌八

教養について 中山 茂

ユニセフミルクの歌・母心童心・新刊紹介・職場の聲





(六頁より) 熱意にもえるのである。

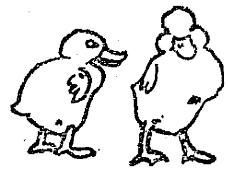
(以上は筆者の假空の物語である。月餘の病院生活の間、往々傳えられる公私幼稚園の關係(?)とか、保育所、幼稚園の關係(?)とかいうようなことが、見舞客の短い話の端から漏れ、打消しながらも氣にもかゝる。保育所と都市A市の話は、その病床でのうつら／＼の夢の口述である。乞う諒せられよ。)

(一二頁より) 近世の教育思潮に侮りおたい力を有した功利教育と結びついている。しかし、近世には知識の教授を除いて功利的な試行錯誤的教育が考えられておらないが、それはこのような方法が自然現象に觀察せられないことが一因であつたと云える。しかし、以上の自然教育法と成童期以後に再び立志を利用して現れる自然方法以外は、近世にはすべて諸式教育方法がとられた。この注入的な嚴格な形式を重視する教育法に對して、遊びによる教育法は、權道として考えられ、ある時期において正道の教育に移るために劇然とした段階を作らなければならないとせられていた。すなわちその段階までの教育作用は消極的な意味しか持たされることが多かつたが、これが近世に幼児期が非教育的な時期であるとせられる大きな原因となつた。(つづく)

(三九頁より)

## (5) 六歳兒の發達的特質

六歳兒の特質は大體において五歳兒の連続であるといつていい。本質において幼兒的である。このことを念頭において順調にのびて行くように心がけたいと思う。



## 子供讃歌（七）

倉 橋 惣 三

### 六 彼の保育理論を育てた關西保育界

1 神戸——望月くに子氏

武庫山を背にした斜面の港町の八月は、明るい日光と海からの涼風にめぐまれて、さわやかである。神戸幼稚園の廣い部屋の硝子窓が、一ぱいにあけはなれて、中央の大テーブルには、籠に盛られた新鮮ないろ／＼の果物とサイダーの泡のたつ幾つかのコップが置かれてあり、白いテーブルクロスを、窓からの風が、ひら／＼とさせている。

『お暑かつたでしょう』

『こゝは大そう涼しいですね。それに神戸は空氣が晴れ／＼していて、氣持ちがいいですね。さつき、停車場からこゝへつれてきていただいた途中でも、坂道から、ふりかえつてみる、港の景色がすっかり氣に入りました』

『おんなじ暑くても、東京より空氣が、むしむししないのがいゝようです。——香櫨園の講習では、どんなお話でしたの』

『新日曜學校論というので、勝手な自由な話をさせて貰いました』

彼が、そういつてサイダーに口をぬらすと、テーブルのむかうの望月さんが、つめたくひやしたバナナを、銀のナイフで切つて、ガラスの皿においてくれた。そうして、氏獨得のキビ／＼した調子で、

『こゝでも新幼稚園論を勝手に自由にお話をして下さいませんか。來年こゝで、三市聯合保育會の大會を開きますか』

ら』

といつて、若い人達をかえりみて、

『ねえ。そう願いましうね。わたし達は新しいお話に餓えてるのね』

といつた。もと／＼關東の生れで、東京女高師の第一回の卒業生である望月さんは、齒切れのいい東京辯である。それが、滑かな關西辯で話す若い保母さん達のなかで、一層元氣よくきこえる。

望月さんとは、手紙の往復はあつたが、會うのは此の日がはじめてであつた。彼が、阪神香櫨園の日曜學校教師講習に招かれてきた機會、わざわざ、迎えられて望月さんの幼稚園へ來たのである。

その時の約束にもとづいて、翌年の春、彼は、三市聯合會の總會で、『保育の新しい目標』と題して、長い講演をした。東京では、遠慮してひかえていた、彼の新保育論、殊に、フレーベリヤン、オルソドキシーに對する批判的な論を、望月さんの求められた通り、勝手に、自由、に、やゝ無遠慮な位に説いたのである。無遠慮というのは、何しろ日本の保育の中心になつていたような關西、殊に、フレーベリヤン、オルソドキシーの本山のようにきこえていた、ミツシヨンの保母養成所のある此の神戸に於てだからである。

會場で第一に氣のついたことは、保育會の總會に、幼稚園の人ばかりでなく、小學校の校長さん達や、縣當局の人達が、多く列席していたことである。これは東京の保育の集りでは、(當時の) みられない光景で、關西の保育界の盛んなことがうなづかれた。

望月さんは、會員席の最前列にいて、彼の、活動心理學や、神經發達論のや、學問的な論述の中に、若い氣焰のまじる話を、熱心にきいていてくれたが、講演がすむと控室に一しよにきて、やゝに握手してくれた。そのころ勢い、望月さんは、よく握手する人であつた。

この講演が、會員にいかなる反響をあたえたかはわからない。然しその後の茶話會で、來年夏神戸保育會主催で、夏季講習會をするから、もつと組織たてたあなたの理論を聞かせて下さいと幹事諸君からいわれた時、若い彼の心の中に、得意があつたことはうたがない。かうして彼の保育理論は、望月さんによつて保育界に引出されたのである。

そうして、彼は、自分ひとりで、獨創の自信をもつていたらしい。ところが、その茶話會の途中で、一人の若い校長さんがたつて、頗る、エモラスな口調で、次のような一席のスピーチをした。

『今日の講師のお話は、全く新しいひびきをもつたお話としてうけたまわつた。講師はいろいろ學問的な引用をもつておはなし下すつて、大そう有益でありましたが、お話の全體をつらぬくものとして、私の感じたことを申上ぐれば、私はお話をきいている間、私が子どもの時育つた田舎の生活をあり／＼とおもひだしていました。私はそこでは講師の強調されたとをり室内によりも、戸外保育をたのしんだ。晝一よりも、自由遊びをたのしんだ。小さい筋肉の練習よりも、原っぱを駆けまわり木のぼりをし、講師のいわれた大筋肉の遊びをたのしんだ。まゝ、今日の幼稚園でつかわれる恩物などというものは知らないで、草や、石ころや、講師の所謂、自然の恩物にふんだんに恵まれた。つまり、私のたのしんだ、幼稚園を知らない田舎の子としての幼児生活は、今日講師の御主張になつた新保育論をつくりだつたのです。私は、その幼時を思ひだして、幸福な子どもだつたと思ひました。そうしてその幸福を、今日の講師のお話で、うらづけられたような氣がしました』

この小學校長のスピーチは、始終にこやかな顔つきと、やわらかい語調とをもつて、語られたので、みんな快い中に氣樂に聞いていたのであるが、彼、即ち當の講師は、非常に教えられるところがあつた。彼のこの日の講演は、横文字の本の中からの學問によつて、新しい保育論として組たてられていたのである。そこに彼の自信もあつたのである。ところが、今日若い校長のスピーチをきくと、それは、何でもない子供の自然の生活に外ならなかつたのである。彼は、この頃、しきりに學問的に新保育論を組みたてようとしていたが、この校長は、それを聞き乍ら、自分の幼時の田舎の自然の生活を、うつとりと思ひだしていたのである。勿論、この校長は、講師に對して『今更そんなことは珍らしく大げさないうことでもない』なんていういさゝかの皮肉をふくんでいたのでもない。むしろ講師のはなしを最もすなをに、眞正面からうけとつてくれたのである。そのことは、あとでその校長に彼が『いゝことをいつて下さいました』といつて禮をいつた時、一寸思がけないような顔をしながらも『いゝえ／＼私こそ、ありがとうございました』と全く純真な笑顔でこたえられた表情でもよくわかることであつた。――が、彼としては、大へんに教えられたのである。そうして、それが彼の所謂新保育論の一生を通じて、どんなにか、有益な深い教訓であつたか、測られない。彼は、いつでも、思ひがけないところで教えられる。この校長の言も、校長を通して、子供たちが教えてくれたことにほかならないが、有りがたいことである。

## 2 大阪——膳たけ子氏

當時望月氏とともに、關西の保育界の長老であつた人に、大阪市江戸堀幼稚園の膳たけ子氏があつた。東京女高師の初代の保育研究生で、我國保育の先驅者であつた氏原銀女史の妹君であつて、古くから大阪の保育界にいられたのである。前年の神戸の三市聯合保育會にも出席していられたが、その翌年から彼を大阪で開かれる、三市聯合保育會大阪市保育會の講習會、大阪市各區の保育會の講習會へと、毎年彼を迎えつづけられた。それは十年近くもつづいたかとも思うが、いつの夏でも、膳さんの肥えた溫容が其の中心になつてゐた。膳さんは、誠に溫容の寡黙の人で、保育論も熱心に聞かれたが、講習會の間、彼を慰勞することにも心をつくされた。若い彼が、文樂に親しみたのも關西料理の味を覺えたのも、そのお蔭であつた。それはまあ、餘興としても、この大阪連年の講習會で、彼が、眞に益を得たものは、新保育論の總論から各論に亘つての研究の機會であつた。彼は後に、年々各地の保育講習會に招かれたが、聴衆の變るにまかせて、お恥しい乍ら同じ話の繰り返しも少くなかつた。然しこの大阪のような、主催は異つても、聴き手の同じ連年の講習では、年毎に問題を變えてゆかなければならない。それが彼の研究のために、どんなに役にたつたことであらう。丁度新進の大學教授が、年々の特殊講義を一年掛りで用意するように、彼は、大阪講習の爲めに勉強させられたのである。まづ女高師では、保育學の講義を持つてゐなかつた彼としては、いわば、大阪が、その担当講座といつた風であつたのである。

といつて、その内容は、もとより大したものではなかつたに相違ないが、會員諸君も、年々の親しさで、怨意もまし、いわば、學生のようになつて、中堅、若手、それらの質問がなか／＼厳しい。彼は、うつかりしてゐられないのである。それを、にこ／＼笑ひ乍らそばできいてゐるのは膳老女史であつたが、この人が、彼の前年の講義の節々を丹念に實行してゐる報告は、いつも彼を驚かした。大きい事では、朝の會集廢止や、小さい事では、自然物玩具の研究や、砂場の改造や、砂箱保育の利用等である。斯うした、講義が速やかな實行に移されることは、神戸の講演の後で、望月さんが、園外保育を熱心に實行された事などと合せて、彼を甚しく喜ばせた事である。

大阪では講習會の他、彼は各區の幼稚園に案内されて、その實際を見せられもし、意見も求められた。その當時、各區は、殆んど競争位で、立派な幼稚園を持つてをり、建物も非常に豪華な木材など使い、庭も泉石の美を盡したりして、互に誇る風があつた。卒直に言えば、幼稚園としてあらずもがなと思われる位であつたが、これが大阪公立幼

稚園の當時の一つの特色であつたかもしれない。彼は、それが餘り賛成でなく、自慢の學務委員諸君などの前で「この築山には、犬と子供は入る可からずではないのですか」などと、口輕な皮肉をいつたりした。そのためか、どうか處々の幼稚園で、子供が驅けのぼつていゝお山を造ることが流行したのも面白いことであつた。學務委員諸君ということをつたが、彼を幼稚園に案内すると共に、屢々學務委員諸君をつれて來て、彼の意見をその人達の前でいわけたのは、さすがに、實行を主した大阪風だと常に感心した。そうして、理論を理論として聞くのでなく、直ぐに、實際に移そうとするこの現實都市で、新保育論を述べたことを、彼は心から喜びとした。また、實現を離れた理論を説かないように、彼は如何にれんまされたことが測られない。

かくして、

『せんせ、來年またきて下されや』

といわれ乍ら、彼の保育理論は、興えるところよりも育てられること多き年々を経験したのであつた。彼の若い日の保育研究が關西（神戸、大阪のみならず）の知己に負うたことは大きい。彼は、いつも到るところで勉強させられたのである。

x

x

x

彼は、當時を追かいする毎に、前に舉げた二人の「關西のおばさん」を特記せずにはられない。しかし、若い彼の保育理論が育てられる上に力あつた人は、おばさん（彼は時々そう言つて呼びかけた）よりは若い中堅連の中にも澤山あつた。おばさんを舉げるために、こゝでは神戸と大阪だけ書いたが、その中堅は無論、京都にもあつた。その人達、更にそれよりも若い——若かつた——人達が、今日の關西保育界を擔つている人々である。そうして、若かりし日の彼の新保育論が色あせてゆく中で、時代の色あざやかな新保育がその人によつて關西に發展させられている。復興の勢に盛りあがつている全国各地の保育界と共に。

# 幼 児 の 心 理 的 發 達 (十)

東京家政大學教授 山下 俊 郎

## 六、六歳兒の心理的發達(つづき)

### (3) 情 緒 的 發 達

一體に六歳兒はすべての精神生活において、五歳兒にくらべて均衡を失つて居り、不安定な状態にあるといわれる。五歳兒のころにはすでに一應の頂點に達し、一應の落ちつきを得ていた子どもたちは六歳になると新しい精神發達のあゆみをはじめるので、均衡と安定とがくずれて來るとされてゐる。

このことが最もはつきりと現われるのが情緒的生活であるといつていいであらう。すなわち、情緒の分化と發達とはまさに五歳兒のところで述べたように五歳までのあいだに一應の完成のすがたをそなえて來ている。おとなの生活に現われて來るようないろ／＼の情緒がすでにひととおり分化して來

ているからである。ところが六歳になると子どもは情緒的に不安定な状態になり、興奮的になり、落ちつきを失つて來るのである。このことを一つ々々の情緒について少し述べて見よう。

まず泣くことから觀察して見る。幼兒は五歳にはすでにあまり泣かなくなつていた。ところが六歳になると子供はまた泣きやすくなる。二歳ごろに見られたようなかんしゃくを起すことも時として起つて來る。一體に六歳兒は泣き虫なのである。めそ／＼したり、ワア／＼泣くこともある。ちよつとけがしてもすぐに泣きやすい傾向が強くなつてゐる。

泣くというのは情緒の現われである。六歳兒がこのように泣き虫であるとすれば、この現われのもとなる情緒にもそれだけの變化があるはずである。そこでこのことをもう少し考えて見る必要があるとなつて來る。

恐れのようにすを見ると五歳兒はすでに四歳までに見られた幼兒らしい恐れを一應卒業していた。ところが六歳になると

恐れはまた強くなつて來ることが見受けられる。ことに聽覺的な恐れ、例えばサイレンの音のようなものに對する恐れが非常に強くなつてゐる。また、とくに想像力の發達にともなつていままではそれ程の意味を持たなかつたようなものが恐がられるようになつて來てゐる。幽霊や魔女、妖精というようなものを恐がつたり、ものかげに誰かゐるのではないかというようなことを恐がるようになる。その他大きい犬や野獸深い森林、小さい昆虫、雷、雨、火事などいゝものゝものが恐がられるようになつてゐる。死に對する恐れやけがことに血を出すことに對する恐れは五歳以下の子どもには見られなかつたくらい強くなつてゐるのが見られる。

怒りの情緒を見ても六歳兒はまたはげしさを見せてゐる。三歳ごろまでに見られたようなはげしいかんしやくは五歳ごろにはすでに一應の落ちつきを見せて來てゐるのである。ところが六歳すぎると子どもは非常にはげしく怒るようになる。非常に攻撃的になり、言葉でも身體でもまわりの人に對してはげしくつかかるようになつてゐる。いわゆるかんしやくを起して、床の上にひつくり返つたり、人をけつたり、打つたり、口ぎたなくひとをのしつたり、ものをこわしたり、動物や虫や小さい子供をいじめたりするというようなこともしばしば見られるようになつてゐる。ほかの子どもの持ち物に對してしつとするというようなこともしばしば見られるのである。

愛情においては、六歳兒は自分の家族、ことに母親、父親

さらにきょうだいに對する愛情をすでに豊かに持つてゐる。笑いにおいては六歳兒になるといゝの豊かな世界が開けはじめたと見られる。ユーモアの世界にも子どもたちの心はそろ／＼開けかけてゐると考えられる。

六歳兒の情緒的發達を見ると、五歳兒に見られた安定がくずれてゐる所に大きい特徴が認められるのであるが、この不安定を落ちつけて行く過程をなだらかにしてやることが幼兒の相手をするもののためであらう。

#### (4) 社會的發達

社會的發達においても情緒的發達の所で述べたのと同じようなことがいえる。すなわち、五歳兒は社會生活の中に自分というものの獨立を身につけてゐる點においても、ひとと一緒にになり協同して生活するという面においても、すでに一應の段階に達してゐたのである。

この發達の傾向は六歳兒になつても大體同じようであるといつていいであらう。社會的發達、ことに子ども同志の社會生活の發達の第二段の展開は八歳ないし九歳ごろからが本格的に行なわれるのであつて、その前期の年齢では少しずつのあまりめだたない變化があるだけであるからである。このことは例えば子どもたちの作るグループの大きさについても言える。グループの大きさというのは社會生活の發達を見るのに最も單純な手とり早い一つの手がかりである。五歳兒の所で幼兒の作るグループはせい／＼二人から五人ぐらいの大



きさであると述べたのであるが、六歳児においても、子どもたちの作る自然發生的なグループはやはり五—六人程度のグループが普通なのである。

ただ、その社會生活の分化の度は、少しずつすすんで行くであろう。たとえば友達というものに對して、大體において幼兒の生活に現われている友だちはその結びつきの程度からいうと非常に淺い一時的のものである。すなわち遊びや遊具をなかだちとして作られるその場、そのとき限りのお友達であることが多い。五歳児の所で子供たちがお友達と遊ぶことを心から好むようになることを述べたのであるが、この傾向は六歳児になると一層強くなつて來るのである。六歳児は友だちを持つというところに非常な興味を持つてゐるのである。このことはおともだちという言葉が子どもたちの口から實によく出て來るといふことにも現われている。そしてこの年齢の子どもたちはちよつと見るとおともだちと仲よく遊ぶことが出来るように見える。しかしそう長続きがしないのであるそれはやはりほんとの社會生活というものが身についていないからであつて、よくけんかする。しかもそのけんかは大抵は物のうばい合いから起ることが多い。六歳児の社會生活はまだ／＼ほんとの協調生活に入つていないのである。

まず、全體的に考へて六歳児の社會的生活は五歳児と本質的にはいちじろしい差異が認められないと言つていいであらう。少しずつの漸進的發達は認められるのではあるが。

こゝでいまままでふれなかつた幼兒の道德的な發達について

少し述べて置きたい。道德的發達において大切なことは、善いことと悪いことがどの程度に理解されているかということである。幼兒はいいことはまわりの大人ことに両親がしてもいいということであり、悪いことというのは大人がしていけないことであると考えてゐる。この考え方をピアジェは道德的實念論レリアリズムと名づけた。實念論というのは考えたことと客觀的に實にすることとを混同する考え方であつて、幼兒的な考え方の代表的なものである。したがつて道德的實念論というのは、道德というものが人間の外の世界に實體として存在しているといふ考へ方なのであつて、いいことわるいことといふのはこれがちゃんと人間とは別なものであるとして存在していると考えてゐる。この別に存在しているものはすなわち大人がいいと言ひ、わるいといふものなのである。だから幼兒はつねに大人のいいといふことがいいことであり、わるいといふことが悪いことであると考えてゐる。このことは周圍の大人が子どもの行動の上にと興える批判によつて善惡を判斷するということを示している。したがつて何かの形において常に子どもの行いに對する批判を興えることが何よりも大切な道德性を養う道であり、方法である。この意味において絕對に叱らないといふような方法は道德性を高める方法では決してあり得ないのである。このような道德性の發達傾向は三四歳ごろから六歳に成るまで大體同一の傾向をたどつてゐるといつていいものである。(三一頁下段ハ)

# 記 録

## 保育所運営及び指導要領(案)

### 作 成 懇 談 會

厚生省では、保育所運営について具體的な目標と方法を指導するため、先般來編集委員により先づ要綱を定め、委員の手により執筆中であつたが、この程原案が出来たので、左記により作成懇談會を開催したが、出席者の活潑な意見交換が行われた。

#### 1 名稱 保育所運営及び指導要領(案)

##### 作成懇談會

2 日附 三月十七日、三十一日の兩日、

午後一時から五時まで

#### 3 編集委員並に出席者

愛泉寮長

東京育成園

横濱保母學院長

方南隣保館長

品川保育園長

日本社會事業協會兒童課長

キヌツクリツヒ

松島正儀

平野恒子

恒吉シヅ子

齊藤ヤイ

三野享

日本社會事業協會兒童課長

東京都保育研究會代表

同

同

同

東京都社會事業協會保育部會代表

同

日本保育學會代表

母子愛育會教養部代表

吉野裕子

秋田美子

増子とし

川田百合子

鈴木とく

河村太龍

千葉義廣

竹田俊雄

植松治子

## 第二回全國保母養成所長會

厚生省では、三月二十七日、二十八日、二十日の三日間にわたり、第二回保母養成所長會を開催し、全國十一ヶ所の保母養成所長及びケースワーク、グループワーク、精神衛生學社會事業一般の四科目を担当している教諭、講師が參集し、GHQ公衆衛生福祉部ミス・ブルーガー、同大畑たね氏、保育課長吉見靜江氏を中心とし、保母養成所運営全般にわたる協議と、前述四科目の教授要目を検討し、標準的教授要目を作製した。

出席者は左の通り

珠川善子(名古屋市立保母專門學園々長) 遠藤邦三(同教諭)

三上孝基(同講師) ケースワーク・社會事業(同講師) 精神衛生(宮本正雄(大阪府立保母學院々長) 大塚憲清(千葉縣立保

母養成所々長) 谷川貞夫(同講師―社會事業概論・ケースワーク・グループワーク) 高岡麟二郎(東京都立保母學院々長) 濱野正眞(同教諭) 上野隆憲(同講師―ケースワーク) 秋田美子(同講師―グループワーク) 平野恒子(横浜保母專門學院々長) 寺井田鶴子(同教諭―ケースワーク) 中井優一(同講師) 瓜巢憲三(同講師―グループワーク) 吉村良司(同講師―社會事業一般・精神衛生) 藤平榮・高知縣兒童課長) 佐藤良臣(同縣厚生課・講師―社會事業) 大久保穂(同縣兒童課) 小林宗作(厚生保母學院々長) 坂本一郎(代)(同園講師―精神衛生) 鈴木忠藏(福岡縣立高等保母學院教諭―精神衛生) 太田義英(岡山縣保母養成所々長代理) 竹内眞道(同所講師―精神衛生) 山崎ちとせ(宮城縣立保母養成所々長) 今岡健一郎(宮城縣社會事業協會・教諭―ケースワーク・グループワーク) 大阪護司(講師―社會事業)

## 官廳公示連絡事項

### 幼稚園教員養成 短期大學の誕生

このたび文部省から、昭和二十五年度において開設を認められた短期大學(第一回分)の發表があつたが、そのうち幼稚園教員養成の短期大學は左の通りである。

東京 東洋英和女學院短期大學・保育科(舊東洋英和女學院保育専攻部)

定員三五名―東京都港区東島居坂町二

兵庫 聖和女子短期大學・保育科(舊財團法人聖和女子學院)

定員六〇名―西ノ宮岡田山一

兵庫 頌榮短期大學・保育科(舊頌榮保育専攻學校)

定員五〇名―神戸市生田區中山手通六の三六

奈良 天理大學短期大學部・保育學科(舊天理保母養成所)

定員三〇名―奈良縣山邊郡丹波市町

### 昭和二十四年度幼稚園 教員養成修了者の措置について

三月十七日文部省告示第八號で昭和二十四年度に幼稚園教員養成所を修了する者の措置について發表があつたが、この告示によつて從來の保母養成所を昭和二十五年三月に修了する者は、教育職員免許法施行法第二條第一項の表の第二十四號口に該當する文部大臣の指定する教員養成機關を修了した者として「幼稚園教員の假免許狀の授與を受ける資格を得た

のである。

文部省告示第八號

教育職員免許法施行法(昭和二十四年法律第百四十八號)  
(以下「施行法」という。)第二條第一項の表の第二十四號  
の規定により、次の表の上欄に掲げる學校等をそれぞれそ  
の下欄に掲げる教員養成機關として指定する。

昭和二十五年三月十七日

文部大臣 高瀬莊太郎

上	欄	下	欄	備考
一、省略	省略	省略	省略	略
二、省略	省略	省略	省略	略
三、専門學校の入學資格を有する者を入學資格とする幼稚園令(施行規則(大正十五年文部省令第十七號)第十條第五號の規定により、都道府縣知事が指定した學校であつて、一年以上幼稚園教員養成課程を有するもの)	施行法第二條第一項の表の第二十四號の上欄に規定する教員養成機關	昭和二十四年度の修了者に限る		
四、省略	省略	省略	省略	

(以上二項—文部省初教育課)

## ユニセフ寄贈物資による保育所給食範圍の擴張について

ユニセフの好意による保育所給食は從來、東京、大阪、京都、北海道、宮城、神奈川、新潟、愛知、兵庫、廣島、愛媛、福岡の十二都道府縣三八施設において行はれて來たが、今般その實施範圍を更に、山形、福島、富山、岡山、長崎、香川、高知の各縣にも及ぼすこととし、これらの各縣宛以下のような通牒が發せられた。(なおユニセフ給食については本誌四八卷十一號三五頁以下参照)但し擴張施設數及び指定施設の名稱等は未定である。

兒U第六〇號

昭和二十五年四月三日

厚生省兒童局長

知事殿

### ユニセフ寄贈物資による保育所給食の實施範圍の擴張について

ユニセフの好意により我が國の兒童に對して贈與された脱脂粉乳による保育所の給食は、昭和二十四年十一月より十二都道府縣三八保育所において實施して來たのであるが、今般この範圍が擴張され貴縣においても別紙ユニセフ給食實施要

領並びにユニセフ給食事務取扱要領にもとづき、實施されることになつたから、指定をうけた各施設に對しては左記各項御了知の上これが趣旨の周知徹底を圖ると共に、その指導には特に留意の上所期の目的達成に遺憾のないようせられたい  
なおこの物資取扱については昭和二十四年十月二十七日發第二四號「ユニセフ物資取扱要領について」等により處理せられたい。

## 記

一、この給食はユニセフ本部から特に模範的給食施設として指定された保育所において實施されるものであること。

二、この給食の實施に當り、都道府縣は前項の施設と同一市内の同一環境にある保育所を調査對象施設として選定し種々の検査觀察等の比較を行うものである。

三、この給食のためユニセフから供與されるミルクは一人一日五〇瓦であるが政府から特別配給する物資は味噌、醬油、砂糖、油、澱粉小麦粉であること。

四、この給食の營養標準量を確保するため都道府縣はユニセフミルク及び政府配給物資にのみ依存することなく魚介その他給食材料の特別配給につとめ又調理の指導についても常に意を用いたえず給食内容の充實向上を圖ること。

五、給食の方法は概ね左によること。

第一回（午前九時半） ミルク（二五瓦）

第二回（正午） ミルク入副食物（ミルク二五瓦）

第三回（午後三時） ミルク（二五瓦）

六、この給食をうける兒童の給食費は凡て無料とし、これが所要經

費は國及び施設所在の都道府縣並に市において負担するものであること。（負担區分等については別途通知の豫定である）

七、給食運営會の組織については昭和二十四年五月十一日兒發才四〇一號通知（保育施設給食事務の取扱について）の別紙保育施設給食運営會規程準則を参照すること。

八、給食施設に對する注意事項

（一）調理室、食器、鍋、釜等は清潔を保ち常に衛生上の注意を喚起すること。

（二）火災豫防について萬全の措置を講ずること。

（三）直接調理を担当する者の健康狀態に注意して急性傳染病の豫防をはかること。

（四）給食物資の調理については營養、味、色等についても細心の注意を促し、單に配給をうけた物資を機械的に給與することのないよう工夫すること。

なお毎日の給養内容については使用量、熱量、蛋白質、所要經費等を記しておくこと。

（五）給食用物資取扱には特に責任者を定め一定の貯蔵室を設け盗難、損耗、清潔等に留意すること。

（六）施設附設菜園の經營、兎、山羊等の飼育、養魚を奨励するべく給食に利用すること。

九、この給食の實施により昭和二十四年五月十一日厚生省發兒才第三八號厚生農林次官連名通知による給食は置き替りされるものである。

十、ユニセフ物資の取扱方法等については別に通知の見込である。

（以上一項一厚生省兒童局保育課）

# 會から

○新保育期を迎えて  
お子さん方と先生方  
の春らんまんの楽し  
い園を祝します。

○波根氏の前號につづく論文を、今月號にお  
約束していましたが、編集締切を早めたため  
玉稿をいたゞけず、來月號にゆづります。そ  
の手ちがいを、波根氏と讀者とにおわびしま  
す。

○鈴木氏の稿は、この實際家の謙虚な態度の  
中に燃える保育理想に、貴いものを盛り上げ  
られずにいけません。

○瀧田氏の稿は、季節の自然をもつてするお  
もちやあそびの指導を豊かに與えられている  
もの、必ず皆さんの御參考になるものが多い  
と思います。材料は特にありふれた花や草を  
選ばれています。幼い人といつしよに、楽し  
み試みてみて下さい。春の野に庭に。

○本號には二つの力強い記事を書けることが  
できました。伊豆山童園創設の苦心談と、名  
古屋市第三幼稚園再建の報告です。今や、こ  
ういう創設と再建の氣運は、保育界に興隆し  
つゝあります。いづれも苦難なしには實現し  
得ないことで、その處々で各異つた事情を免  
れませんが、成功の力が熱心と敢行に出づる  
ことは、一つであります。こういう力強い御

報告は大小にかゝわらず、詳細御寄稿下さ  
い。近く岡山大學の教育學部長阪元彦太郎氏  
からも、附屬幼稚園復興の喜ぶべき記事を寄  
せられることになっていきます。

○倉橋主幹の巻頭は、具體の敘述の形を以て  
した論文です。理論の形でなしに、保育界の  
實際について、望ましい理想のあれこれが説  
かれていきます。A市とあるのは假想の市で實  
在の土地ではありません。當て倉橋主幹が本  
誌に『森の幼稚園』という理想物語を書いた  
時、その幼稚園はどこにあるのかとの問合せ  
を多く受けたことがあります。A市について  
はまたそんなお手数をかけないよう、念の  
爲此の欄からおことわり致しておきます。

## 『幼児の教育』編集

編集主任 倉橋惣三  
協力委員 牛島義友 及川ふみ 齊藤文雄 多田鐵雄 波多野完治 山下俊郎 (五十音順)

編集委員

西山浪太郎

日本幼稚園協會

幼児の教育 第4卷 第四號

定價 金參拾圓

昭和二十五年四月十五日印刷  
昭和二十五年四月二十日發行

東京都中野區千光前町一〇

編集兼 倉橋惣三  
發行者

東京都文京區柳町二二番地

印刷者 杉山龜吉

東京都文京區柳町二二番地

印刷所 第一印刷株式會社

東京都文京區大塚町三十五

東京女子師範學校附屬幼稚園内

發行所 日本幼稚園協會

東京都千代田區神田神保町二ノ四

發賣所 株式會社 フレーベル館

電話九段(33)三九七一 番

振替 東京一九六四〇番

○本誌御購讀について注文申込その他  
は凡べて發賣所フレイベル館宛に願  
います

# 新 學 期 用 品

## 保 育 日 記

B 5判二〇頁  
定價一八〇圓

〒 35圓

東京都保育連合會の選定に成るもの、自由保育の線に沿う、つけ易く、無駄のない自由記帳式日記、装幀も堅牢美麗。

## 在 籍 簿

50枚1組 定價 二〇圓

## 在 籍 記 録

50枚1組 定價 二〇圓

## 出 席 簿

20枚1組 定價 一〇圓

〒 (12圓)

## 身 體 檢 査 費

50枚1組 定價 二五圓

## 保 育 證 書

大判一・二尺×八・五寸 定價三圓

小判八・五寸×六寸 定價二圓五十錢

大判二〇〇枚まで三五圓  
小判三〇〇枚まで三五圓

園名記入の場合は、實費一枚3圓申し受けます。

## 保 育 料 袋

造星

キンダーブックを御愛顧願つてゐる園にのみ、無料進呈する美麗色刷の袋

## 出 席 カ ー ド

表紙共13枚  
定價二五圓  
〒 50組まで 55圓

## 出 席 カ ー ド 用 貼 紙

箱入り (10人分12ヶ月入り)

定價三六〇圓

袋入り (20人分1ヶ月入り)

定價 六〇圓

紙質は、艶紙で、裏はアラビヤ糊引。

## マ ン テ ン ク レ ヨ ン

箱本巻

八色一箱 五〇圓 送料12箱マデ 35圓

バラ賣 (一本) 五圓 送料200本マデ 35圓

箱巻

八色一箱 二八圓 送料24箱マデ 35圓

バラ賣 (一本) 三圓 送料400本マデ 35圓

## ク レ ヨ ン ケ ー ス

一箱二五圓 送料30箱マデ 35圓

## 組 別 名 札

一ヶ二圓五十錢 送料10ヶまで 35圓

## 先 丸 錠

(銷止め) 定價30圓 送料60箇マデ 55圓

發 行 所

東京都千代田區  
神田神保町2の4

フ レ ー ベ ル 館 保 育 用 品 株 式 會 社

坂 本 口 座  
東京 38171

観 察 繪 本

# キンダーブック

KINDER-BOOK

キンダーブックのフレーベル、フレーベルのキンダーブック——この繪本は餘りにも有名です。發刊以來既に通卷 250 號を發行し、全國の各幼稚園保育所をはじめ、健全な家庭から、學齡前の幼兒に無條件に與へられる代表的な繪本として積々の好評を載いてをります。先頃連合軍總司令部CIEより發表ありましたものゝ中にも、アメリカにおいても類誌のない独自のものであるとの御言葉がありました。企畫、編集、用紙、着色、製本凡ゆる面に不斷の精進をつづけ、號は號を追つて益々良いものを世に送りたいと努力してをります。次代の日本を背負う愛兒のためのこよなき心の糧であります。

A 5 判・16 頁・月 1 回發行・定價 40 圓・送料 3 圓

新しい社會科繪本發行！  
キンダーブック特集號！  
汽車繪本の決定版！  
“たのしい汽車”

B 5 判・三二頁（五色刷背クロース）  
解説 付 七〇圖

全國の先生方、お母様方が要望に答えて三  
流の作家、畫家と編集者が眞心をこめて一  
十萬の愛讀者の子供達に贈る社會科繪本の  
第一集です。  
先生もお母様も子供時代に戻つてお子様達  
と一緒に「楽しい汽車」のつて旅をして  
下さい。夢と情操と汽車の知識をかねそな  
えた幼稚園、保育所、小学校低學年向の汽  
車の繪本の絶対他誌に負けない自信をもつ  
ブツク同様の御愛讀を願います。  
卒キンダー

童話 西條八十 近藤 東  
繪 吉澤廉三郎 安井小彌太  
武井武雄 木俣 武  
黒崎義介 上田三郎  
澤井一三郎 松井行正

（三月下旬發行）

發行所

東京都千代田區神田  
神保町二丁目四番地

株式  
會社

フレーベル館

振替口座東京  
一九六四〇番